



- ・たまプラーザ駅南口から…徒歩5分
- ・あざみ野駅から…徒歩約20分
- ・鷺沼駅から…徒歩約15分
- ・渋谷駅から…東急田園都市線(長津田・中央林間行)で、たまプラーザ駅まで約25分
- ・横浜駅から…横浜市営地下鉄ブルーライン(あざみ野行)終点あざみ野駅で、東急田園都市線(渋谷・押上方面行)に乗換え、たまプラーザ駅まで約30分
- ・羽田空港から…バスでたまプラーザ駅まで約50~70分

◆入学試験に関して  
03-5466-0141 (入学課)

◆観光まちづくり学部について  
045-904-7700 (たまプラーザ事務課)

〒225-0003  
神奈川県横浜市青葉区新石川3-22-1  
國學院大學  
横浜たまプラーザキャンパス

観光まちづくり学部についてホームページで紹介しています。

私たちが目指す観光まちづくりについて、いっしょに学んでみませんか?

観光まちづくり学部  
ホームページ

Community Dreams

國學院大學 観光まちづくり学部

地域の

夢

ようこそ！  
観光まちづくり学部へ

第5期生の皆さん、観光まちづくり学部へようこそ。

新たな仲間として皆さんを迎えられることを、学部を代表して心からうれしく思います。

2025年度、本学部は初めての卒業生を送り出しました。創設期から教職員とともに学部をつくり上げてきた第1期生の存在は、学部にとって大きな力となり、学びの文化や風土を形づくる礎となりました。その思いを受け継ぎ、第2期生から第4期生が実践を重ね、学びの厚みを着実に広げてきました。そして今年、皆さんが加わることで、観光まちづくり学部は「創設期」から「成長期」へと、新たな段階に踏み出します。

私たちの拠点である若木21も、開設当初には想像しきれなかったほど、学生の活動と交流によって息づく場へと成長しました。観光まちづくり演習をはじめとする実践的な学びも、試行錯誤を重ねながら、確かな手応えをもつ教育プログラムへと育ちつつあります。皆さんには、この流れの中に身を置き、自らの学びを積み重ねるとともに、学部の次のステージをともにつくっていく存在となることを期待しています。

この学部には、皆さんを支えてくれる心強い先輩たちがいます。教室での座学と地域での実践を往復しながら、悩み、議論し、学びを深めてきた先輩たちは、良き相談相手であり、大きな刺激となるでしょう。こうした学年を超えたつながりこそが、観光まちづくり学部ならではの学びの伝統を育てていきます。

観光まちづくりとは、地域の夢に形を与える前向きな学問です。地域を理解し、そこに生きる人々と向き合いながら未来を構想し、その思いを実現へと導くための知恵と技術を、皆さんとともに体系的に学んでいきたいと考えています。住んでいる人にとって誇りの持てる地域は、訪れる人にとっても魅力ある地域であるはずです。

このガイドブックは、そうした学びの世界へ踏み出すための、最初の道しるべです。

ようこそ、私たちとともにつくる観光まちづくり学部へ。

國學院大學 観光まちづくり学部  
学部長 梅川 智也



梅川学部長とLearning Assistant(略称LA)の皆さん  
LA 本学部2年生必修科目演習Ⅰ・Ⅱをサポートする本学部3年生の学習アシスタント  
前列(左から)河野絢、北村博斗、梅川学部長、堀川真那、渡邊惇史  
後列(左から)石黒由悠、斧田琉奈、中世古愛唯、寺西詩音、岩間航星  
撮影時欠席のLAは、松本聖也

※学年表記は2026年1月のものです

目次

P2	学部の紹介	P42	地域マネジメント研究センター(CMI)
P6	教員の紹介	P46	学内施設等案内
P8	カリキュラム	P52	地形図で見るたまプラーザキャンパス
P27	学びのサポート	P54	入試情報
P34	進路・就職	P56	アクセス情報

# 観光まちづくりとは —キーメッセージを読み解く—

観光まちづくり学部 学部長 梅川 智也

「地域を見つめ、地域を動かす」——これは私たち観光まちづくり学部が最初に掲げたメッセージです。では、実際に地域の現場で何をどうすれば、「地域を見つめ、地域を動かす」ことになるのかについて、4つの柱を立て、それぞれ2つずつのメッセージに分解したのが、次ページの図です。

4つの柱とは番号順に、地域環境、地域社会、地域経済、そしてそれら全体のマネジメントを表しています。4つの大きなアイコンが目印です。

まず1つ目の柱、地域環境に関して、観光まちづくりという視点でこれに接近する手立てとして「地域の個性をみつめ、みがく」ことを挙げています。さらにその下に、2つの小さなアイコンがあります。地域の個性をみつめ、地域の資源を活かすことが地域を元気にし、ひいては地域環境を守ることにつながるのです。

同様に2つ目の柱、地域社会に関しては、大切にすべきものとしてローカルマーケットと、つながり自体のワクワク感を挙げています。地域の人々にとって元気が出るようなつながり方が大切なのです。

3つ目の柱、地域経済については、地域内での経済循環、いわゆる地産地消の大切さと、レジリエンス向上の推進を取り上げています。

ここまでの3つの柱は観光まちづくりを進める際の基本となるものです。いずれが欠け

ても観光まちづくりは成立しません。そしてこれらは地域のサステナビリティを支える3本柱でもあります。

最後のアイコンが先述の3本柱を支えるマネジメントに関するものです。それは人材と仕組みづくりから成っています。多様な人材が世代を超えて結びつき、継続的に物事に取り組めるような仕組みをつくることによって、観光まちづくりがサステナブルなものになっていくのです。

観光まちづくり学部のカリキュラムも、これら4つの柱を中心に組み立てられています。専門教育の中核となる展開科目はⅠ類(社会)、Ⅱ類(資源)、Ⅲ類(政策・計画)、Ⅳ類(交流・産業)から成っていますが、この4つの類の構成は、おおむねそれぞれの柱に対応しています。そしてこれらを横つなぎするのが、必修の観光まちづくり演習です。地域の現場に出かけることによって、「地域を見つめ、地域を動かす」とは具体的にはどういうことなのかを体感するプログラムになっているのです。

観光まちづくり学部は地域に軸足を置くことによって、魅力ある地域づくり・魅力ある観光地づくりのエキスパートを育てることを目指しています。これが、私たちが目指す観光まちづくりです。

さあ、観光まちづくりから広がる世界の扉を、ぜひ開けてみてください。——そこからあなたの物語が始まるのです。

わたしたちが目指す「観光まちづくり」キーメッセージ——  
「地域を見つめ、地域を動かす」





## 観光まちづくり学部の理念・学位授与方針

観光まちづくり学部では、地域に対する深いまなざしに基づき、地域社会の現状と課題を理解し、地域資源の保全活用と地域を動かす様々な人々の連繋によって、地域を主体とした観光や交流を促すとともに、活力あふれる地域を実現できる人材を養成します。

そのために、社会、資源、政策・計画、交流・産業に関する知識・技能を身につけ、地域の実情に応じた将来像を構想し、多くの人々と協働しつつ、よりよい未来へ向けての計画や提案を行い、実装に向けて行動できる意欲と能力を有した人材を養成するための教育を行います。

### 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

#### 【知識・技能】

**DP-A1** 多様な現代社会を理解する深い教養を身につけ、観光や交流が地域にもたらす影響を多角的・批判的に理解している。

**DP-A2** 地域の課題解決に向けて、地域をとりまく社会構造や社会意識の様態、資源の特性を理解し、観光まちづくりの方策としての政策・計画及び交流・産業に関する知識を身につけている。

**DP-A3** 観光や交流を通じた活力あふれる地域の実現に向けて、具体的な地域の特性や課題を的確に把握・分析できる。

#### 【思考力・判断力・表現力】

**DP-B1** 学修した知識や技能を活用して、具体的な地域を対象とした観光や交流に関する施策の可能性と、それらが活力ある地域の実現にどのように貢献するかについて、理念と根拠に基づき自らの考えを述べることができる。

**DP-B2** 自らの考えや他者に伝えたい事実について、その実証的根拠を明らかにして、口頭説明や文章、図表、造形物等によって表現し、適切に伝えることができる。

#### 【主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度】

**DP-C1** 社会の多様性を尊重し、様々な文化的背景を持った他者との共同作業や対話を通じて自分の考えを深めることができる。

**DP-C2** 学修した知識や技能を活用して、現実の地域社会に働きかける実践的な態度で学ぼうとする。

以上の能力を身につけるために設けられた教育課程を履修して所定の単位を修得した者に「学士(観光まちづくり)」(英訳名称：Bachelor of Tourism and Community Development)の学位を授与します。



## 履修について

### 卒業に必要な単位

観光まちづくり学部では、共通教育科目を26単位以上、専門教育科目を74単位以上修得し、かつ全体で124単位以上修得することを卒業要件としています。自由選択領域の24単位は、学生が自らの興味・関心に基づいて共通教育科目、専門教育科目、全学オープン科目から自由に修得できます。

#### 卒業要件

科目区分	卒業に要する 単位数
共通教育科目	26単位以上
専門教育科目	74単位以上
自由選択領域	24単位
合計	124単位以上

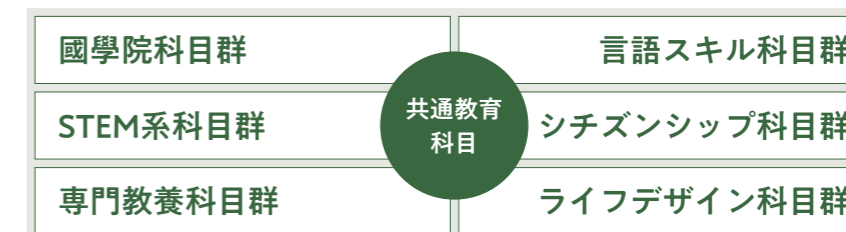
#### 専門教育科目の履修条件

科目区分		履修方法	単位数	
導入科目		必修科目	4単位	
メソッド科目		必修科目	2単位	
		選択必修科目	4単位以上	
演習科目		必修科目	18単位	
		選択必修科目	2単位以上	
展開科目 44単位以上	基礎 26単位以上	I類 (社会)	選択必修科目 4単位以上	
		II類 (資源)	必修科目	2単位
			選択必修科目	4単位以上
		III類 (政策・計画)	必修科目	2単位
	選択必修科目		4単位以上	
	IV類 (交流・産業)	必修科目	2単位	
選択必修科目		4単位以上		
発展		選択科目	12単位以上	

### 共通教育科目

- 共通教育科目は、大学で学修する上でも生涯学び続ける上でも必要なスキル、社会に主体的に参加するために必要な知識やスキルを修得する全学共通のカリキュラムで、6つの科目群からなります。
- 観光まちづくり学部の学生は、必修科目として國學院科目群の「神道と文化」と言語スキル科目群の「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」を履修し、選択必修科目として「第二外国語Ⅰ」「第二外国語Ⅱ」※を履修します。その他は、STEM系科目群から1科目以上を履修することが履修条件となっていますが、各自が自由に組み合わせることで履修することができます。

※第二外国語は、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、スペイン語の中から自身で選択した同一の言語を履修します。



## 専門教育科目

- ・導入期(1年前期)から基礎期(1年後期～2年前期)は、多様な社会のあり方に対する構造的な見方の基礎となる社会学の学びと、観光や交流が地域に与える影響の多面性や地域に働きかけるまちづくりの基本的な知識と考え方を身につけます。
- ・発展期(2年後期～4年後期)には、学生の興味・関心及び希望する進路に応じて、観光まちづくりに関連するさらに多様な分野の応用的・実践的学びへと深めていきます。
- ・導入期から発展期までの4年間を通して、演習科目が開講され、学修した知識・技能を統合し、地域における観光まちづくりに貢献する実践的な力へと結びつけていきます。

図：専門教育科目の構成と開講年次

		1年次		2年次		3年次		4年次	
		導入期		基礎期		発展期			
専門教育科目	導入科目	●社会学概論 ●まちづくりと観光							
	メソッド科目	●社会調査法入門		●統計分析の基礎 ●プログラミングと数学基礎	●パブリックデザイン(地域と公共空間)	●質的調査法 ●データサイエンス ●プロダクトデザイン(地域と杉)	●多変量解析 ●地理空間情報分析		
	演習科目	●導入ゼミナール	●基礎ゼミナールA	●観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法) ●基礎ゼミナールB	●観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析)	●観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) ●専門ゼミナール(通年)		●卒業研究(通年)	
	基礎	I類 社会		●文化社会学 ●コミュニケーション論	●地域と環境の社会学 ●都市とメディアの社会学				
		II類 資源		●地域資源論 ●博物館概論	●保全生態学概論 ●民俗学概論 ●都市建築史				
		III類 政策・計画		●公共政策概論	●地方自治概論 ●地域デザイン論 ●国土・都市計画論 ●観光空間計画論 ●都市と地域の交通				
		IV類 交流・産業		●観光学概論 ●観光マーケティング	●観光政策・計画論 ●観光事業論				
	発展	I類 社会			●ジェンダーの社会学 ●グローバリゼーション論	●観光社会学 ●コミュニティ論 ●NPOと市民社会	●文化人類学		
		II類 資源			●風景計画論 ●レクリエーション計画論 ●地域文化創造論 ●地域遺産論	●文化行政・文化財政概論	●自然/環境保護行政概論 ●世界遺産論		
		III類 政策・計画			●行財政概論 ●まちづくり論 ●農山漁村論	●住民参加と合意形成 ●都市保全論 ●交通計画 ●地域防災論	●リノベーション論 ●アートと地域振興		
IV類 交流・産業				●観光行動論 ●ホスピタリティ・マネジメント論 ●旅行産業論 ●宿泊産業論 ●地域の観光情報メディア	●観光地経営論 ●観光食マネジメント論 ●世界の観光政策	●観光経済論 ●田園回帰論			
トピックス科目		●経営学概論	●運輸・観光実践論 ●ソーシャル・イノベーション ●地域ブランディング論	●観光まちづくりインターンシップ(通年)	●不動産投資論 ●観光危機管理論 ●文化芸術政策論				
関連科目	●哲学・倫理学	●地理学概論	●神道と環境Ⅰ	●神社ネットワークⅠ ●地域と都市の経済 ●観光心理学 ●博物館教育論※ ●博物館資料保存論※	●博物館展示論※ ●博物館情報・メディア論※	●博物館経営論※ ●博物館実習A※	●博物館実習B(通年)※		

太字：必修科目 ※博物館学芸員課程

## 導入科目：観光まちづくりの専門教育への入り口

観光まちづくりの専門教育への円滑な導入を図るため、社会学の基本的な理論と、観光や交流を通じたまちづくりの基本的な考え方を学ぶ以下2科目を導入期(1年前期)の必修科目としています。

### 社会学概論(1年前期・必修)

人間は、社会的存在である。私たちは社会の中に生きているが、社会のことをどれくらい知っているのだろうか。社会は、個人間の相互作用から、家族やコミュニティのような集団・組織、さらには国家と国民の関係に至るまで様々であり、その範囲も非常に幅広い。社会学は、このように広範で複雑な社会の現象を分析し、その構造と変動を明らかにする学問である。

この科目では、社会が人々の行動や思考にどのような影響を与えるか、また、社会構成員はそれにどう反応し、社会を創り上げてきたかを理解するために、社会学の基礎概念、理論、手法を幅広く学ぶ。「近代化」という共通の問いを念頭に置きながら、各回では、政治、経済、技術、文化の諸要因とともに、家族や地域社会、都市と農村、個人の日常生活がどのように変容してきたかを学ぶ。それを踏まえ、社会を多面的、かつ批判的に捉えるための思考力を身につけ、社会の問題と向き合い、より良いあり方を考えるための手がかりを模索する。

### まちづくりと観光(1年前期・必修)

観光まちづくり学部が目指す観光や交流を通じた持続可能な地域づくりへ向けて、「地域を見つめ、地域を動かす」ための基本的な考え方と複眼的な見方にふれ、これからの4年間で学ぶべきことの見取り図を得る。

前半では、「まちづくり」と「観光」に関連する基本的な理論と議論を通史的に学んだ上で、首都圏の宿場町や地方の大都市・中小都市等の事例をもとに、「まちづくり」と「観光」双方の出発点及び接点となる「地域の個性」をみつけるための基本的な考え方と見方にふれる。

後半では、「まちづくり」と「観光」の接点が豊富な都市観光地、町並み観光地、温泉地、農山村、自然観光地等の事例をもとに、それぞれの地域が抱える課題と背景を踏まえた上で、「地域の個性」を守り、磨いていくための基本的な道筋と方法の枠組みにふれる。そして、「まちづくり」と「観光」に関わる主体と取組の多様性に気づくことを目指す。

## メソッド科目：観光まちづくりの実践を支える調査分析手法やデザイン手法を学ぶ

- ・観光まちづくりの実践に不可欠な社会的な調査手法と、具体的な地域を対象とした分析技術やデザイン手法を身につけるため、以下の9科目を用意しています。
- ・導入期(1年前期)の必修科目として「社会調査法入門」を履修した後は、学生が自らの興味・関心に応じて、2科目4単位以上を履修します。
- ・専門ゼミナール(3年次)や卒業研究(4年次)の所属ゼミやテーマ、自身の進路等を視野に入れて、積極的に履修することを推奨します。

1年次開講：社会調査法入門(必修)／統計分析の基礎／プログラミングと数学基礎

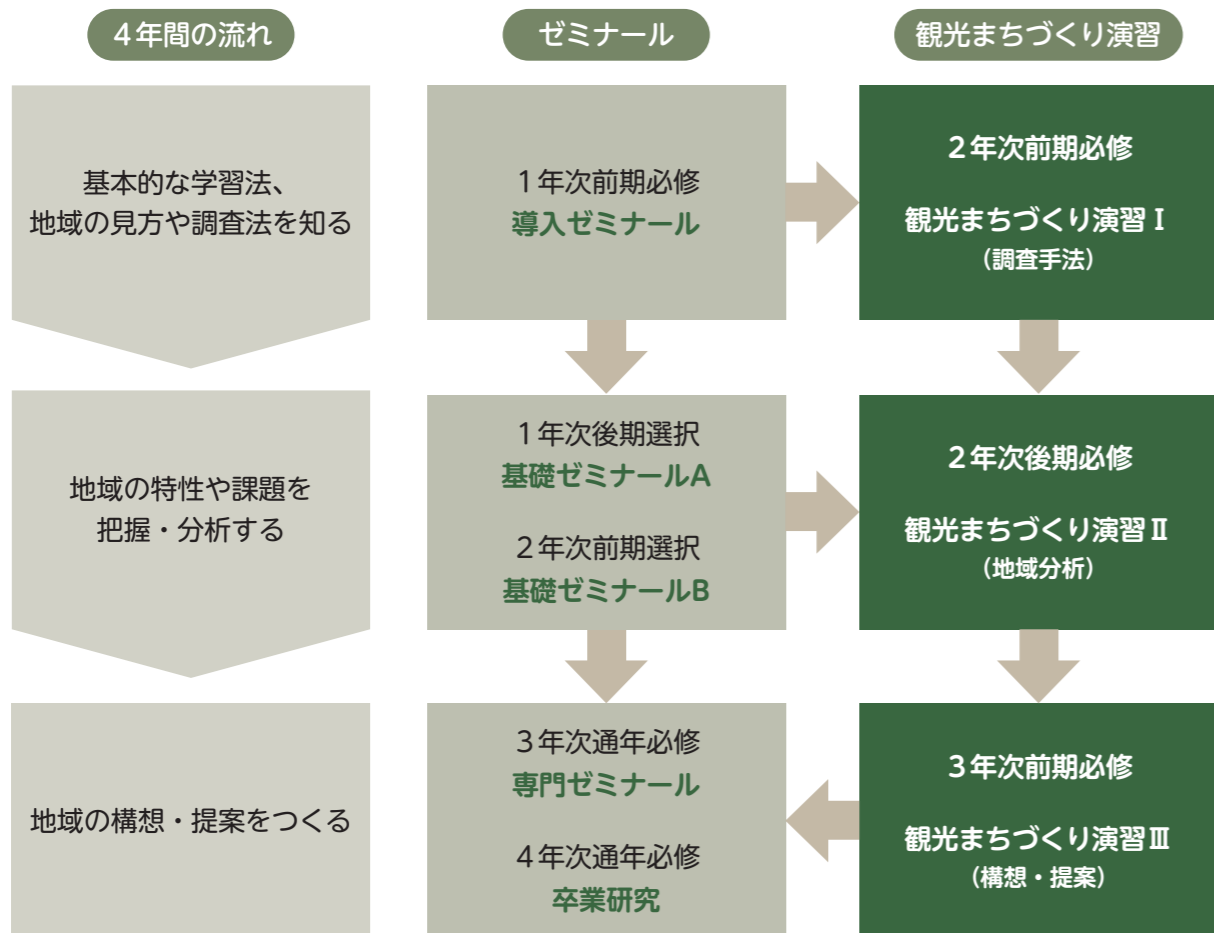
2年次開講：質的調査法／データサイエンス／パブリックデザイン／プロダクトデザイン

3年次開講：多変量解析／地理空間情報分析



## 演習科目：課題解決型学習で観光まちづくりを実践的に学ぶ

- ・演習科目は、各専門分野の個別知識や技能を統合的に活用し、学びの段階に応じた課題解決型学習を通じて、実際の地域へ「提案」を行う能力を実践的に身につけていきます。
- ・各専門分野の教員による少人数教育のゼミナールと、グループワークを重視した観光まちづくり演習で段階的・継続的に学び、4年間かけて必修6科目18単位、選択必修1科目2単位以上を履修します。
- ・観光まちづくり学部での学びの集大成として、3年から4年次にかけて卒業研究に取り組みます。



## 展開科目：観光まちづくりに関わる多様な専門領域の学び

- ・観光まちづくりに関わる多様な専門領域の知識を身につけます。
- ・I類(社会)、II類(資源)、III類(政策・計画)、IV類(交流・産業)の4分野から構成しています。
- ・基礎期(1年後期～2年前期)には、4分野のバランスのとれた学びによって、観光や交流が地域にもたらす影響の幅広い理解と、観光まちづくりの方策に関する基礎的理解が図れるよう、細かな履修条件を設定しています。
- ・発展期(2年後期～4年)には、より深い社会構造や観光まちづくりの具体的でより専門的な方策への理解が図れるよう、学生自身の興味・関心に応じた選択的・主体的な履修を重視しています。
- ・2年前期までに26単位修得を目指し、卒業までには44単位以上を履修します。



## I類(社会)：地域を取り巻く社会の構造及び社会意識の実態や課題を学ぶ

- ・I類(社会)の科目では、現代社会の構造と意識、未来への課題に関する理解を促し、大都市から地方農村までの異なる地域で生起する社会・文化現象を、歴史的背景を含む多様な社会的、産業的、政策的文脈の中で位置づけることができる能力を養います。
- ・基礎期には4科目を開講し、2科目4単位以上を履修条件としています。
- ・発展期には6科目を開講します。各自の興味・関心や希望進路に応じて履修してください。

### 【基礎期】

1年後期開講：文化社会学／コミュニケーション論

2年前期開講：地域と環境の社会学／都市とメディアの社会学

### コミュニケーション論(1年後期) \\PICK UP!\\

私たちは、常に誰かと何かについてコミュニケーションしている。日々実践しているこの「当たり前」な営みを、社会学的視点から捉え、主要概念、理論、歴史、具体例を学ぶことで、学問の対象として理解する。コミュニケーションは、自我と他者、個人と社会を結び相互作用を生み出し、その様相はことば、文字、映像など、多様である。集団と組織における異なる文化や価値観を媒介することも重要な役割の一つである。

前半では、コミュニケーションの原理を理解するために基礎概念を整理する。後半では、メディア社会／大衆社会の中でコミュニケーションがどのように発展してきたかを学ぶ。現代社会を形づくってきた様々な専門分野の特徴を、歴史や具体例を通じて知ることで、よりよいコミュニケーションのあり方を考える手がかりを理解する。

### 地域と環境の社会学(2年前期) \\PICK UP!\\

社会学の中でも地域社会(コミュニティ)の仕組みや、社会と環境との関わりに関連する領域である、農村社会学、地域社会学、環境社会学の基礎的な考え方について学び、これからの地域社会による環境(山、川、景観など)の保全と利用のあり方について考えていく。

その際、「生活」という視点を1つの軸とし、地域住民の生活との関わりに重点を置く学説や実践事例を中心に学び、理解する。こうした作業を通して、ボトムアップ型の社会を実現するためにどのような仕組みが必要なのか、具体的に考えていく。

### \\PICK UP!\\

当該科目区分内からの一部科目の概要紹介です。詳細及び他の科目については、シラバスを参照してください。

### 【発展期】

2年後期開講：ジェンダーの社会学／グローバリゼーション論

3年以降開講：観光社会学／コミュニティ論／NPOと市民社会／文化人類学

### グローバリゼーション論(2年後期) \\PICK UP!\\

観光まちづくり学部が掲げる「地域を見つめ、地域を動かす」とは、ローカリズムの宣言である。「ローカル」は、地方、地域、場所を意味する。その対極の概念が「グローバル」で、私たちの生活隅々までもが「グローバル」になっていくのが「グローバリゼーション」である。では、「グローバル」が蔓延すれば、「ローカル」は廃れるのか。「ローカル」の未来を見極めるには「グローバル」の歴史を知る必要がある。この歴史は数千年に及ぶ。古代ローマ帝国や大航海時代、帝国主義、そしてアメリカの覇権で世界はどう変化したのか? それらのグローバリゼーションの先に何が待っていたのか? 1990年代以降、日本はなぜこの大波に適応できなかったのか? 私たちの現在は、いかなる未来への道の途上にあるのか? それを知りたければ、この授業を受けてみてほしい。

### NPOと市民社会(3年前期) \\PICK UP!\\

人々の社会的必要を満たすモノやサービスは、営利企業が中心となる市場経済によってのみ提供されているわけではない。多様な行政サービスを生み出す政府も、家事やケア等を行っている家族も、そして地域や特定の社会的属性を持った人々のニーズを満たすボランティアやNPO、協同組合などの非営利・協同セクターも、人々がよりよく生き、生活する上で重要な存在と言える。

本講義では、多様なニーズや特性を持った人々が、それぞれの特性を活かして生きていける共生社会を目指す上で、市場経済や行政、家族、そして非営利・協同セクターがいかなるメリットとデメリットを持っているかを理解し、上記セクター間のいかなる組み合わせや融合がそうした社会の構築に資するものとなり得るのか、NPO活動の事例分析を端緒として検討していく。

## Ⅱ類(資源)：地域をとりまく歴史・文化、自然など地域固有の資源のあり方と保全管理を学ぶ

- ・Ⅱ類(資源)の科目では、歴史・文化、自然など地域固有の資源を見出し、その特質を支えてきた地域の営みとの関係を理解し、それらを保全し磨き上げるための制度や方策、技術を学びます。
- ・基礎期には5科目を開講し、必修1科目の他に2科目4単位以上を履修条件としています。
- ・発展期には7科目を開講します。各自の興味・関心や希望進路に応じて履修してください。

### 【基礎期】

- 1年後期開講：地域資源論(必修)／博物館概論
- 2年前期開講：保全生態学概論／民俗学概論／都市建築史

#### 地域資源論(1年後期・必修)

\\PICK UP!//

地域のまちづくりや観光を支える資源には様々なものがある。気候や地形・地質、動植物、そして各時代の政治や経済の状況などと地域資源との関係性を捉えるとともに、これらの変化と合わせて人々の生活や生業が移り変わる中で地域資源がどのように変容・変質してきたのかを具体的に捉えながら、「地域性」をもたらす様々な要因と、それを具体的に表す事象との関係について理解を深める。

また、地域資源の継承が求められている社会的背景や各地での取り組みの動向についても学ぶとともに、関係する制度・事業についての基礎知識を習得する。

#### 民俗学概論(2年前期)

\\PICK UP!//

私たちの周りには、地域や家によって受け継がれてきた様々な民俗文化がある。こうした、暮らしに根ざした身近な文化に焦点をあてることで、自らの知見と照らし合わせつつ、日本人が持つ価値観とその方向性について考える。それが、民俗学が内省の学とも呼ばれる所以である。

民俗学の概説を通じて、その基礎的な知識を得るとともに、基本的な民俗の捉え方を養う。先人たちがどのような生活をおくり、どのような「生きがい」を抱いてきたのかを認識し、ひいては日本人の考え方や行動のあり方を見つめ直す。

### 【発展期】

- 2年後期開講：風景計画論／レクリエーション計画論／地域文化創造論／地域遺産論
- 3年以降開講：自然/環境保護行政概論／文化行政・文化財行政概論／世界遺産論

#### 風景計画論(2年後期)

\\PICK UP!//

風景あるいは景観を計画・設計するという観点に立脚し、人間を取り巻く視覚像である風景を分析的に把握し、予測、評価する方法について学ぶ。風景・景観認識のメカニズム、そして分析から評価、計画に至るプロセスや手法に関する講義を通して、多様かつ複合的な視点をいかに整理し、客観的な分析と評価の対象とするかについて学ぶ。また、風景計画・景観設計の実態に触れながら、人々の生活と風景との関わりについても理解する。

風景の計画、形成に当たっては踏まえるべき原則と、風景に対する時代の志向や価値観、そして地域ならではの環境との関わり方に対する配慮が必要である。地域の歴史的、社会的、文化的背景と、形成される風景との関係について考える。

#### 文化行政・文化財行政概論(3年前期)

\\PICK UP!//

本講義では、文化財を大きく有形の文化財(不動産、動産)と無形の文化財に大別しながらそれぞれの成り立ちと変遷、保護の仕組みについて概観する。

また、破壊から守るために社会の仕組みとは切り離されて保護されてきた有形文化財の現在の課題とは何か、社会変容の中で消えゆく人のわざや慣習はどのように残し得るか、文化的景観や民俗文化財等、保護の対象が人々の生活に近いものとなるほど、有形と無形、不動産と動産を截然とは区分できないのは何故か等、守るものの特質や性質によって異なる保護の考え方を理解し、比較を通しながら文化財と地域社会との関係を考える。

## Ⅲ類(政策・計画)：地域の空間構造を踏まえた将来像の構想や働きかけに有効な具体的政策及び計画を学ぶ

- ・Ⅲ類(政策・計画)の科目では、公共政策や工学等のまちづくりに関連の深い分野を中心に、地域の将来像を構想し実装する政策・計画に関する知識や能力を身につけます。
- ・基礎期には5科目を開講し、必修1科目の他に2科目4単位以上を履修条件としています。
- ・発展期には9科目を開講します。各自の興味・関心や希望進路に応じて履修してください。

### 【基礎期】

- 1年後期開講：公共政策概論(必修)
- 2年前期開講：地方自治概論／地域デザイン論／国土・都市計画論／都市と地域の交通

#### 公共政策概論(1年後期・必修)

\\PICK UP!//

地域をとりまく様々な政策の中でも、国や地方自治体における公共政策の根幹を理解できるよう、体系や制度についてまず学んでいく。一方で国民・住民に主権があり、政策形成にも主権者の多様な参加が試みられている。そこで、実際の公共政策形成プロセスや制度の運用、地域づくりにおいて、また主権者自体が試みる政策形成や事業展開の事例も順にみていく。そうしたさまざまな先進事例を検討することの中から、グローバル化の時代も背景とした、これからの公共政策のあり方について考える。

#### 地域デザイン論(2年前期)

\\PICK UP!//

有限な地域空間において、住民と観光客をはじめとする多様な主体の幸せな共存を目指して、まずは、建物から敷地、街区、地区、都市、広域までの多層的スケールで空間的・社会的デザインとプロセスデザインを考えるための基本的な見方を学ぶ。

そして、地域を取り巻く環境も人々の意識も激動期にある現代において、行政の縦割りや広域化等の弊害を超えて地に足の着いた地域主体のデザインを行うためのアプローチと技術の基礎を習得する。

### 【発展期】

- 2年後期開講：行財政概論／まちづくり論／農山漁村論
- 3年以降開講：住民参加と合意形成／都市保全論／交通計画／地域減災論／リノベーション論／アートと地域振興

#### 農山漁村論(2年後期)

\\PICK UP!//

農山村の地域構造の原型ともいえる「家と集落(むら)の関係」を理解し、農山村地域が今日に至るまで直面してきた社会的諸問題を考えながら、その解決手段として試みられてきた地域づくりの展開を探る。

また、積極的に地域づくりを進める上で不可欠な視点である「地域経済」に焦点を当て、地域資源をもとにした産業基盤(とりわけ農山村地域の主要産業である第1次産業)への理解を深め、グローバル化に直面する中での地場産業の変化と課題、また対応する試みを学ぶ。漁村についても、適宜、関連する論点を扱う。

#### 地域減災論(3年前期)

\\PICK UP!//

日本は自然災害の多い地域であり、地震、津波、火山噴火、台風、豪雨などによって大きな被害が発生している。このような自然災害から市民の生活を守り安心して暮らしていけるように、日常時から防災・減災まちづくりを推進し進めることは重要である。また、このような取り組みは、一般市街地だけではなく、多くの観光客が滞在している観光地においても同様に重要である。

地域で求められる防災・減災・復興まちづくりに関して、防災・減災まちづくりの仕組み、一般市街地と観光地における防災活動、災害を引き起こす自然現象と発生する被害、過去の代表的な自然災害と復興まちづくり、新たな取り組みとしての地域協働型の事前復興まちづくり、たまプラーザキャンパスと防災・減災まちづくり、について学ぶ。



## Ⅳ類(交流・産業)：地域を主体とした域内外の交流の在り方とその関連産業がもたらす経済効果を学ぶ

- ・Ⅳ類(交流・産業)の科目では、地域を主体とした域内外の交流のあり方や、そうした交流を通じて地域に経済効果をもたらす具体的な方策及び関連産業の枠組みについて学びます。
- ・基礎期には4科目を開講し、必修1科目の他に2科目4単位以上を履修条件としています。
- ・発展期には10科目を開講します。各自の興味・関心や希望進路に応じて履修してください。

### 【基礎期】

- 1年後期開講：観光学概論(必修)／観光マーケティング
- 2年前期開講：観光政策・計画論／観光事業論

#### 観光学概論(1年後期・必修)

\\PICK UP!//

観光の歴史的発展を概観して時代とともに観光をめぐる環境や状況が変遷することを理解する。その上で今日の観光という事象を取り巻く様々な主体について、観光客の視点に加え、観光事業者や観光推進組織、行政など観光客を受け入れる地域側の視点、さらには観光政策や観光関連法規、観光計画といった政策実現の視点、そして国際的な観光を俯瞰する視点から広く見渡すことによって、今後4年間の観光まちづくりに関する学びの基礎を身につける。

#### 観光事業論(2年前期)

\\PICK UP!//

観光産業は交通、宿泊、旅行会社、飲食、テーマパークなど多様な業種から構成され、世界中で約3億人が従事し、各事業は雇用創出など地域経済にも大きな貢献をしている。昨今、デジタルエコノミーの進展やSDGsへの対応など、社会的な変化や要請を背景に消費者が観光、旅行に求めるニーズも変化し、観光事業には事業変革による価値創出が求められている。  
このような背景のもと、観光事業別にその経営の特徴や課題を理解し、中長期的な視点からあるべき姿を把握する。観光事業の役割や意義を理解し、地域の持続的な発展のためにどのような貢献ができるか考える力を身につける。

### 【発展期】

- 2年後期開講：観光行動論／ホスピタリティ・マネジメント論／旅行産業論／宿泊産業論／地域の観光情報メディア
- 3年以降開講：観光地経営論／観光食マネジメント論／世界の観光政策／観光経済論／田園回帰論

#### 地域の観光情報メディア(2年後期)

\\PICK UP!//

メディアの特性を制作プロセスと併せて学び、学生に身近なSNSが地域の観光情報メディアとしてどのように活用されているかについて議論する。  
そして、地域における観光戦略の要としての情報発信の実態を把握し、課題を抽出し、情報発信者の立場に立って情報発信のあるべき姿を学ぶ。同時に、自治体のアンテナショップなどリアルな場が担っている役割や今後の可能性についても学ぶ。

#### 田園回帰論(3年前期)

\\PICK UP!//

都市から農山漁村への移住という物理的移動だけでなく、都市住民が地方へ向けるまなざしの変化を含め「田園回帰」と呼ばれるようになってきた。一方、日本全体の人口減を受けて始まった地方創生施策の中で、都会からの移住者獲得に動く自治体が増えている。これらの田園回帰の動きと、プロセスとしての「関係人口」と呼ばれる多様な関わり方や関わりしるづくりについて全国の取組みから学び、特に「なりわい」「住まい」「コミュニティ」という具体的な課題を通じ、物事を多面的に考える力を養う。

## トピックス科目：観光まちづくりの実践的な話題にふれる

トピックス科目は、観光まちづくりの現場や実務に近い分野で活躍している専門家を講師として招き、実践的な話題に触れる科目です。学習意欲の向上や将来の進路を考える契機として活用してください。

- 1年次開講：経営学概論
- 2年次開講：地域ブランディング論／運輸・観光実践論／ソーシャル・イノベーション
- 3年次開講：不動産投資論／観光危機管理論／文化芸術政策論
- 2・3年次開講：観光まちづくりインターンシップ(通年)

## 関連科目：観光まちづくりに関連するより幅広い分野の学び

観光まちづくりを学ぶ上で関連する他の専門分野や、本学独自の神道文化と地域形成について理解を深めるための科目です。また、2022年の博物館法改正も念頭においた学芸員の資格取得を目指す博物館学芸員課程も設けています。

1年次開講：哲学・倫理学／地理学概論

2年次開講：神道と環境Ⅰ／神社ネットワーク論Ⅰ／地域と都市の経済／観光心理学

### 【博物館学芸員課程の科目】

- ・博物館学芸員課程の科目は博物館法施行規則第1条によって定められており、博物館の学芸員資格取得のために必要な知識や技術を習得するため、以下10科目19単位を全て修得する必要があります。
- ・「博物館概論」以外の9科目は、卒業要件に含めない科目です。
- ・受講に際しては、所定の選考に通過し、資格課程費を納入する必要があります。
- 1年次開講：博物館概論 ※本学部では展開科目基礎(Ⅱ類・資源)に位置付けています。
- 2年次開講：博物館資料論／生涯学習概論／博物館教育論／博物館資料保存論
- 3年次開講：博物館展示論／博物館情報・メディア論／博物館経営論／博物館実習A(1単位)
- 4年次開講：博物館実習B

## 履修モデル

観光まちづくり学部では、観光まちづくりの体系的な基礎学習を基盤とした上で、学生の興味・関心や希望する進路に応じた履修が組めるように、以下の6つの履修モデルを作成しています。

これは、いずれかに合致させなければならないということではありません。ひとり一人の学生が、自身の興味・関心や進路を視野に入れて、主体的に科目を選択することが、なによりも大切です。

履修モデルA：社会や生活の調査・分析から観光まちづくりを学びたい学生 p.20

履修モデルB：歴史・文化の保存と活用から観光まちづくりを学びたい学生 p.21

履修モデルC：自然・環境の保護と利用から観光まちづくりを学びたい学生 p.22

履修モデルD：公共政策から観光まちづくりを学びたい学生 p.23

履修モデルE：空間づくり・計画づくりから観光まちづくりを学びたい学生 p.24

履修モデルF：観光関連産業での事業・経営から観光まちづくりを学びたい学生 p.25



履修モデル

A

## 社会や生活の調査・分析から 観光まちづくりを学びたい学生

- ◆展開科目Ⅰ類(社会)、メソッド科目、展開科目Ⅲ類(政策・計画)を積極的に履修します。
- ◆地域を取り巻く社会や生活の分析と計画や政策の分析・策定・実行のための能力を身につけます。
- ◆進路として、公務員、コンサルタント、ジャーナリストや、NPO、NGO、出版、放送、広告、商社、IT、金融など幅広い分野で活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、( ):単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 日本文化を知る コンピュータと情報Ⅰ 科学的思考法	英語Ⅲ・Ⅳ 國學院の学び 情報科学入門 政治と社会参加(NPO)		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	データサイエンス 質的調査法	プロダクトデザイン(地域と杉) 多変量解析	
演習	導入ゼミナール	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4) 基礎ゼミナールB	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開・基礎	[Ⅰ]文化社会学 コミュニケーション論 [Ⅱ]地域資源論 博物館概論 [Ⅲ]公共政策概論 [Ⅳ]観光学概論 観光マーケティング	[Ⅰ]地域と環境の社会学 都市とメディアの社会学 [Ⅱ]都市建築史 民俗学概論 保全生態学概論 [Ⅲ]地域デザイン論 観光空間計画論 都市と地域の交通 [Ⅳ]観光事業論		
展開・発展		[Ⅰ]グローバリゼーション論	[Ⅰ]ジェンダーの社会学 NPOと市民社会 観光社会学 文化人類学 [Ⅱ]地域文化創造論 風景計画論 文化行政・文化財行政概論 [Ⅲ]まちづくり論 農山漁村論 住民参加と合意形成 地域減災論 リノベーション論 [Ⅳ]地域の観光情報メディア	
トピックス		ソーシャル・イノベーション		
関連	哲学・倫理学			
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計124単位

履修モデル

B

## 歴史・文化の保存と活用から 観光まちづくりを学びたい学生

- ◆展開科目Ⅱ類(資源)の科目を中心に、歴史・文化を主な対象として扱う科目を各類から積極的に履修し、必要に応じて博物館学芸員課程を履修します。
- ◆歴史・文化の保存と活用につなげていくことを目指して、地域を取り巻く社会の分析、地域の空間構造・資源の把握、計画や政策の分析・策定・実行、地域主体の交流・産業の創出のための能力をバランス良く身につけます。
- ◆進路として、歴史・文化の保存と活用に直接関与する博物館等の学芸員や職員、公務員、歴史・文化を有する地域の観光協会・DMO・まちづくり組織の職員、歴史・文化を活用した宿泊業や旅行業の分野で活躍する人材、上記に関する情報を集め、編集し、発信する出版、放送、広告等の分野で活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、( ):単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 國學院の学び 日本文化を知る コンピュータと情報Ⅰ	英語Ⅲ・Ⅳ Japan Studies 地球環境と人間 比較文化論Ⅰ		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	プロダクトデザイン(地域と杉)	質的調査法	
演習	導入ゼミナール 基礎ゼミナールA	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4)	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開・基礎	[Ⅰ]文化社会学 コミュニケーション論 [Ⅱ]地域資源論 博物館概論 [Ⅲ]公共政策概論 [Ⅳ]観光学概論 観光マーケティング	[Ⅰ]地域と環境の社会学 都市とメディアの社会学 [Ⅱ]都市建築史 民俗学概論 [Ⅲ]地方自治概論 地域デザイン論 観光空間計画論 [Ⅳ]観光政策・計画論 観光事業論		
展開・発展		[Ⅱ]地域遺産論 風景計画論 [Ⅲ]まちづくり論 [Ⅳ]地域の観光情報メディア	[Ⅰ]ジェンダーの社会学 文化人類学 [Ⅱ]地域文化創造論 文化行政・文化財行政概論 世界遺産論 [Ⅲ]行財政概論 都市保全論 リノベーション論 アートと地域振興 [Ⅳ]観光地経営論 観光食マネジメント論 世界の観光政策 田園回帰論	
トピックス			文化芸術政策論	
関連			博物館学芸員課程(17)	
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計124単位(博物館学芸員課程の単位は含まない)

履修モデル

C

自然・環境の保護と利用から  
観光まちづくりを学びたい学生

- ◆展開科目からⅡ類(資源)の科目を中心に、自然・環境を主な対象として扱う科目を各類から積極的に履修し、関連科目も履修します。
- ◆自然・環境の保護と利用につなげていくことを目指して、地域を取り巻く社会の分析、地域の空間構造・資源の把握、計画や政策の分析・策定・実行、地域主体の交流・産業の創出のための能力をバランス良く身につけます。
- ◆進路として、自然・環境の保護と利用に直接関与する公務員や環境関連組織、観光協会・DMO・まちづくり組織の職員、自然・環境を利用した宿泊業や旅行業の分野で活躍する人材、上記に関する情報を集め、編集し、発信する出版、放送、広告等の分野で活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、( ):単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 國學院の学び 日本文化を知る コンピュータと情報Ⅰ 科学的思考法	英語Ⅲ・Ⅳ Japan Studies 地球環境と人間		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	質的調査法	地理空間情報分析	
演習	導入ゼミナール	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4) 基礎ゼミナールB	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開・基礎	[Ⅰ]文化社会学 コミュニケーション論 [Ⅱ]地域資源論 博物館概論 [Ⅲ]公共政策概論 [Ⅳ]観光学概論 観光マーケティング	[Ⅰ]地域と環境の社会学 都市とメディアの社会学 [Ⅱ]民俗学概論 保全生態学概論 [Ⅲ]国土・都市計画論 都市と地域の交通 [Ⅳ]観光政策・計画論		
展開・発展		[Ⅱ]風景計画論 レクリエーション計画論 [Ⅲ]行財政概論 まちづくり論	[Ⅰ]グローバル化論 観光社会学 [Ⅱ]地域遺産論 文化行政・文化財行政概論 自然/環境保護行政概論 [Ⅲ]農山漁村論 住民参加と合意形成 地域減災論 [Ⅳ]地域の観光情報メディア 観光地経営論 観光食マネジメント論 観光経済論 田園回帰論	
トピックス		観光まちづくりインターンシップ		
関連	地理学概論	神社ネットワーク論Ⅰ		
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計124単位

履修モデル

D

公共政策から  
観光まちづくりを学びたい学生

- ◆展開科目Ⅲ類(政策・計画)の科目を特に多く履修しながら、メソッド科目、トピックス科目を多く履修し、政策や計画の分析・策定・実行のための能力を身につけます。
- ◆特に、3年次以降は、トピックス科目の履修を契機に実務的なものの見方も兼ね備えていきます。
- ◆進路として、公務員、コンサルタント、NPO、NGO等の職員や、出版、放送、広告の分野で活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、( ):単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ コンピュータと情報Ⅰ 法学(日本国憲法) 行政と市民生活 経済理論入門	英語Ⅲ・Ⅳ 國學院の学び 日本文化を知る		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	パブリックデザイン(地域と公共空間) 質的調査法	多変量解析	
演習	導入ゼミナール 基礎ゼミナールA	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4)	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開・基礎	[Ⅰ]文化社会学 [Ⅱ]地域資源論 博物館概論 [Ⅲ]公共政策概論 [Ⅳ]観光学概論 観光マーケティング	[Ⅰ]地域と環境の社会学 都市とメディアの社会学 [Ⅱ]都市建築史 [Ⅲ]地方自治概論 国土・都市計画論 都市と地域の交通 [Ⅳ]観光政策・計画論		
展開・発展		[Ⅰ]ジェンダーの社会学 [Ⅱ]風景計画論 [Ⅲ]行財政概論 農山漁村論	[Ⅰ]コミュニティ論 [Ⅱ]地域文化創造論 文化行政・文化財行政概論 [Ⅲ]まちづくり論 都市保全論 住民参加と合意形成 地域減災論 交通計画 アートと地域振興 [Ⅳ]地域の観光情報メディア 世界の観光政策 田園回帰論	
トピックス			文化芸術政策論	
関連		観光まちづくりインターンシップ		
関連		地域と都市の経済		
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計124単位

履修モデル  
**E**

空間づくり・計画づくりから  
観光まちづくりを学びたい学生

- ◆メソッド科目とトピックス科目を積極的に履修しながら、展開科目Ⅱ類(資源)とⅢ類(政策・計画)の科目、関連科目も履修します。
- ◆空間づくりや計画づくりにつなげていくことを目指して、地域を取り巻く社会の分析、地域の空間構造・資源の把握、計画や政策の分析・策定・実行のための能力をバランス良く身につけます。
- ◆2年次以降、トピックス科目の履修を契機に実務的なものの見方を兼ね備えていきます。
- ◆進路として、宿泊業、建設業、不動産業、運輸交通業の分野や、観光協会・DMO、まちづくり組織の職員、公務員として活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、( ):単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ コンピュータと情報Ⅰ 情報科学入門 科学的思考法	英語Ⅲ・Ⅳ 地球環境と人間 法と社会参加 日本の経済		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎 プログラミングと数学基礎	データサイエンス	パブリックデザイン (地域と公共空間) 地理空間情報分析	
演習	導入ゼミナール	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4) 基礎ゼミナールB	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開・基礎	[Ⅰ]コミュニケーション論 [Ⅱ]地域資源論 博物館概論 [Ⅲ]公共政策概論 [Ⅳ]観光学概論 観光マーケティング	[Ⅰ]都市とメディアの社会学 [Ⅱ]都市建築史 保全生態学概論 [Ⅲ]地域デザイン論 国土・都市計画論 観光空間計画論 都市と地域の交通 [Ⅳ]観光政策・計画論		
展開・発展		[Ⅱ]風景計画論 [Ⅳ]観光行動論 宿泊産業論	[Ⅰ]グローバル化論 [Ⅱ]レクリエーション計画論 自然/環境保護行政概論 世界遺産論 [Ⅲ]まちづくり論 都市保全論 交通計画 地域減災論 リノベーション論 [Ⅳ]観光地経営論	
トピックス		地域ブランディング論	不動産投資論 観光危機管理論	
関連	地理学概論		神社ネットワーク論Ⅰ	
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計124単位

履修モデル  
**F**

観光関連産業での事業・経営から  
観光まちづくりを学びたい学生

- ◆展開科目Ⅳ類(交流・産業)の科目を積極的に履修し、地域主体の交流・産業を創出するための能力を身につけます。
- ◆1年次からトピックス科目を履修し、実務的なものの見方を兼ね備えていきます。2年次には関連科目も履修します。
- ◆進路として、宿泊業、旅行業、地域の観光協会・DMO等の観光産業及び、運輸交通業、起業、商社、IT、金融、広告等の観光関連部門で活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、( ):単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 日本文化を知る コンピュータと情報Ⅰ 経済理論入門	英語Ⅲ・Ⅳ Japan Studies 情報科学入門 経済経営数学入門		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	質的調査法		
演習	導入ゼミナール 基礎ゼミナールA	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4)	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開・基礎	[Ⅰ]コミュニケーション論 [Ⅱ]地域資源論 博物館概論 [Ⅲ]公共政策概論 [Ⅳ]観光学概論 観光マーケティング	[Ⅰ]都市とメディアの社会学 [Ⅱ]保全生態学概論 博物館概論 [Ⅲ]地域デザイン論 国土・都市計画論 観光空間計画論 都市と地域の交通 [Ⅳ]観光政策・計画論 観光事業論		
展開・発展		[Ⅳ]観光行動論 ホスピタリティ・マネジメント論 旅行産業論	[Ⅰ]グローバル化論 観光社会学 [Ⅱ]地域遺産論 地域文化創造論 [Ⅲ]農山漁村論 地域減災論 アートと地域振興 [Ⅳ]宿泊産業論 観光地経営論 観光食マネジメント論 世界の観光政策 観光経済論 田園回帰論	
トピックス	経営学概論		運輸・観光実践論	
関連		地域と都市の経済 観光心理学		
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計124単位

[観光まちづくり演習]

相模原・小原の観光まちづくりは、  
「だんだん小原が好きになる、  
小原三段活用」

みやうち あおい  
**宮内 蒼 さん**  
観光まちづくり学部 3年



道幅の狭い甲州街道を歩いて気づいた  
交通事故の危険性

演習にはⅠ～Ⅲがあります。演習Ⅰでは地域の見方や調査方法、演習Ⅱでは地域の課題の把握、分析を学びます。演習Ⅰ・Ⅱを踏まえて提案づくりまで行のが演習Ⅲです。

演習Ⅲで扱う地域は谷中や神田など5エリアあり、その中から僕が選んだ地域は相模原で、テーマは「甲州道中小原宿の歴史・文化を活かした観光まちづくり」です。

相模原を通っている甲州街道はかつて甲州道中と呼ばれ、いくつかの宿場がありました。その一つが相模原小原地域にある小原宿です。ここには参勤交代のときに大名が泊まった本陣を中心に古い建物が残っています。また、資料館を併設した「小原の郷」という展示施設もあります。

僕たちのグループは昔の町並みを歩いたり、建物の説明を聞いたりして、現状を知ることから始めました。小原宿本陣は、神奈川県下で唯一現存する本陣の建物です。しかし、あまり人が訪れることはなく、十分に活用されている感じではありません。この地域にもっと人を集めるにはどうしたらよいか僕たちの課題になりました。

話し合いの中で皆から出てきたのが、あまりたくさんの方が一度に訪れると危ないのではないか、という意見です。僕も同感でした。甲州街道は道幅が狭いうえに、多くの車が往来するため、歩行時に僕たちは「車が来るから気をつけて」と何度も声を掛け合っていたからです。

1度にあまり多くの方が集まることも問題という点を意識しながら僕たちが考えたのが、まず本陣や「小原の郷」に人を集める、次に周辺の自然を含めた観光資源を回ってもらう、最終的に街道沿いの古民家を改修して泊まってもらう、この3段階で構成する案です。



現存する数少ない江戸期の建築・小原宿本陣

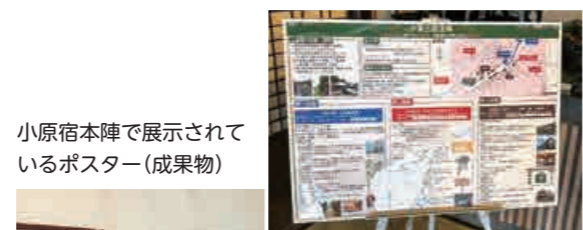
演習Ⅱでは情報集め。  
演習ⅢではポスターとPPT作りに挑戦

提案の軸が決まったあとはみんなで情報を集め、それをまとめてブラッシュアップし、肉付けしていきました。例えば、周辺を散策するモデルコースを考えたり、看板設置を提案に盛り込んだりしました。また、「小原の郷」で話を聞いた来場者の中にトレイルランナーが何人かいて、シャワーがあるといいとのアドバイスをいただいたので、それも取り入れました。

演習Ⅱで僕は主に情報収集をしました。演習Ⅲではこれまでやったことのないことに挑戦しようと思い、集めた情報を基にポスターやPPTを制作する役を自ら志願しました。その作業の中で一番難しかったのはタイトルです。最初は「小原三段活用」としていたのですが、地域をよく知らない人にはわかりにくいと先生から言われ、考えた末に出した修正タイトルが「だんだん小原が好きになる、小原三段活用」。“だんだん”は階段を踏んで上がっていくようなイメージがあり、自分では気に入っているのですが、全体としてまだわかりづらさが残っていて、課題を感じています。

それでも行政の方や小原の方たちへの報告会では「段階的に人を集める」という視点が評価され、その後、大学で行われた学年全体の報告会にも選ばれました。このときは僕も説明したのですが、“超”緊張しました。

将来、どんな分野に進んでも、様々な課題に対して提案や解決を行っていくことはあると思います。そのときに今回の経験は絶対に役立つと思っています。



小原宿本陣で展示されているポスター(成果物)



小原の方々に中間発表

専門ゼミナール(専門ゼミ)

「専門ゼミ」とは

3年生に履修する「専門ゼミ」は、4年生の「卒業研究」に続く重要な科目です。2年生後期に開催されるオープンゼミや個別面談などを通じて自分のやりたいテーマに合ったゼミを決めていきます。授業内容は卒業研究のテーマを決め、最終的には研究計画書を作成することです。校外学習やグループワークなどを積み重ね、一生の友達となるかけがえのない仲間をつくります。

【清野ゼミについて】

清野ゼミでは主にまちづくりや地域コミュニティについてみんなで学びを深めています。3年生夏のゼミ合宿では新潟県佐渡市の南部のまちを訪問します。また定期的に3・4年生合同でまちあるきをして、各地域の歴史や、町並み、コミュニティ拠点になっている場所を中心に現地調査を行い、意見交換をします。

【清野ゼミの1年】

私達は先輩・後輩の垣根を超え仲良しなゼミです！  
そんな私達の1年を紹介します。

4月 ・3,4年生合同懇親会・まちあるき(三軒茶屋)



左: 二子新地にてBBQ 右: まちあるき in 三軒茶屋

5月 ・3,4年生合同懇親会  
・3年生: 卒業研究計画 4年生: 卒業論文作成

6月 ・まちあるき(吉祥寺)  
・3年生: 夏合宿に向けての事前学習  
・4年生: 卒業論文の作成



左: 吉祥寺駅前 右: 井の頭公園にてボートを楽しみました

7月 ・3年生: 夏合宿に向けての事前学習  
・4年生: 卒業論文の作成  
・まちあるき(品川)



左: 品川の歴史について見学しました

8月 夏合宿 in 佐渡島

3年生は佐渡市小木町に2泊、宿根木町に2泊する4泊5日の夏合宿に参加しました。まちづくりをしている方々にヒアリング調査を行い、最終日には住民の皆さんの前で調査をまとめた成果を発表しました。



宿根木で住民の方に発表 小木町にて意見交換会

8月 ・3年生夏合宿 in 佐渡島



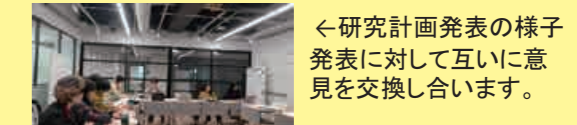
左: 地元の人にヒアリング 右: 3年生の集合写真

10月 ・3年生: 夏合宿のまとめ  
・4年生: 卒業論文の中間発表  
・3,4年生で宿根木祭りに参加



左: 法被を着て参加 右: 祭りの様子

11月 ・3年生: 卒業研究計画発表  
・4年生: 卒業論文作成



← 研究計画発表の様子  
発表に対して互いに意見を交換し合います。

12月 ・3年生: 卒業研究計画作成  
・4年生: 卒業論文提出

1月 ・3年生: 卒業研究計画発表

2月・3月 まちあるき

10月 宿根木祭り

10月11、12日に行われる宿根木祭りに参加しました。夏にお世話になった方々をはじめ地元住民の方に混じり、太鼓や獅子を実際に体験させていただきました。人の温かさや古き良き日本の祭り文化を肌で感じる事ができました。

「また来年もその先もみんなで来てね」とおっしゃっていただきました。人と人との繋がりが地域コミュニティが成り立っていると実際に経験することができました。



# 博物館学芸員課程

## 地域の宝を見つけ、磨き、届ける力を育む

学芸員とは博物館で活躍する専門職です。過去と今、そして未来を繋ぐため、保存や調査、展示などを通じて地域の記憶を紡ぎます。本課程で単位取得することで卒業時に**学芸員資格**(国家資格)を取得できます！

### 授業の一例

#### 博物館資料論

##### ～横浜市歴史博物館を見学～

横浜の歴史・民俗を学べる博物館。現役の学芸員同行のもと、実際に資料が保管されているバックヤードを見学します。「燻蒸室」という虫を駆除するための特別な部屋を見学するなど、貴重な体験をします！質問一つひとつにも丁寧に答えてくださり、学芸員の仕事について深く知ることができます。



#### グループ学習と実践型の学習

博物館資料保存論では学芸員の指導で、グループで話し合って資料の保存と活用について理解を深めます。仕上げの実習は3種類あり、美術品の梱包、学芸員との議論、実際博物館に10日ほど滞在して業務のサポートなどをします。この他、地域連携を結んでいる高山市などを訪れ、民俗資料に触れながら、整理や展示の方法も学べます。

#### オープンキャンパスの展示

学芸員課程を履修している学生が中心となり、展示を作成します。昨年度のテーマは「和紙」。どのような展示にするか話し合い、展示物の収集やキャプションの制作、照明など、1から自分たちで行いました。3日間で300人近くの人が見学にいられました。この活動を通して、学年を超えた縦のつながりも生まれました。



#### 先輩にインタビュー

#### 学芸員課程で履修する授業の中で一番面白い授業はなんですか？

実際に手を動かす、「実習」の授業が面白いです！  
たとえば、展示物のキャプションを作成したり、説明文を考えたり、館内の虫の調査のために、トラップを作ることもありました。  
また、成果発表として展示のワンコーナーを企画・制作しました。

制作：学芸員課程 3年 川辺 愛 / 松本 香凛

## 留学と国際交流



### 主な留学制度

異文化と触れ合い、世界の多様な文化や価値観、社会のあり方を知ることは、翻って地域を見つめる視野を限りなく広げられます。國學院大學では、世界に出て異文化に直接触れ、体験できる留学制度を充実させています。

- 夏期・春期短期留学 ————— 大学の授業を休まずに異文化を体験できます
- セメスター(1学期間)留学 ————— しっかりと語学力を身につけます
- 協定(1学期間～2学期間)留学 ————— 現地の学生と一緒に授業を受けます
- 認定(1学期間～2学期間)留学 ————— 協定校以外への長期留学も可能です

相談は、国際交流課(渋谷キャンパス6号館1階)へ  
[開室時間] 9:00～12:50 13:50～17:00

詳しくはHPで



### 学内で国際交流

國學院大學では、学生がグローバルな視座を獲得するために、キャンパス内での国際交流やグローバル教育にも力を入れています。



### ○交換留学生との授業や交流

國學院大學では、海外協定校から毎年20人程度の交換留学生を受け入れています。日本語を学ぶ彼らと、日本に関する授業を英語で受講したり(Japan Studies)、生活サポートや各種イベント(International Coffee Hour等)を通じて共に交流しながら、多様性のある学びを経験することができます。詳しくは国際交流課にお問い合わせください。



### ○外国人研究者との学術交流

國學院大學では世界各国から研究者を招聘し、研究成果をあげています。また、外国から研究者を招いてのシンポジウムなども行っています。



## 【アメリカ】 まちづくりや自然系の授業を受講 夜中まで図書館で 勉強することも

あさだ ゆきか  
**朝田 幸花**さん

観光まちづくり学部 3年



### 海外で習得した単位が國學院大の 単元に認められる認定留学を利用

高校時代に短期海外留学の機会があったのですが、コロナで中止。大学生になったら絶対に留学するぞと思っていたので、入学後、すぐに国際交流課へ相談に行きました。

当初、希望したのは英語圏ではなくドイツの大学。私は東日本大震災と原発事故で大きな被害を受けた福島県双葉町の出身です。ドイツは原子力発電をやめました。そのような国で国民はどのように暮らしているか知りたかったのです。それにドイツには有名な観光地がたくさんあるので、観光とまちづくりの共存についても学べるのではと思いました。調べるうちにドイツには私の目的に合った大学がないことがわかり、最終的にアメリカ中西部にあるミネソタ州立大学マンケート校を留学先を選びました。

國學院大學にはさまざまな留学プログラムがあります。私は「認定留学」という海外で習得した単位を國學院大の単位として認定する制度を利用しました。約1年の留学期間は本学の修業年限に算入されるので休学する必要がなく、卒業の要件さえ満たせば4年で卒業できることも安心でした。留学するまではTOEICやIELTSなどを受けながら英語の勉強を続けました。

### アクシデントや病気、バイトなどを通して コミュニケーション力がアップ

留学プログラムは前期と後期に分かれます。前期は語学の授業がメインです。日本からの大学生が多く、わからないところを互いに日本語で聞き合えたのはとてもありがた

かったです。

後期は現地の大学生と一緒に専門的な授業を受けます。私が選んだのは、まちづくり系のsustainable communityや自然系のnatural resources、公共政策系のintroduction to the cityなどです。どの授業も宿題が山ほど出ます。例えば、専門書の1章と2章を次の授業までに読まなければならないといった宿題がよくありました。私はリーディングが苦手なので読むのに時間がかかり、図書館で夜中の12時までしょっちゅう勉強していました。4~5人のグループに分かれて1冊の本を読み、グループ内で感想を言い合う授業も結構大変でした。意見が言えなかったらそこで脱落だし、他の人の意見も聞かなくてははいけません。頭の中で日本語⇒英語、英語⇒日本語に変換しては間に合わないの、直接英語で考え、話すようになりました。

今回の留学で一番身に付いたのはコミュニケーション力です。寮のコインランドリーで衣類を乾燥機にかけている間に10枚ほど衣類が盗まれました。警備室に飛んでいき、「こういうことがあったんです。助けてください」と懸命に伝えました。インフルエンザにかかったときには大学のメディカルセンターのドクターに症状を細かく説明する必要がありました。後期の授業のない金曜日は、校内の売店で丸1日バイト。そのときも、他のスタッフやお客さんとコミュニケーションをとらざるを得ませんでした。こうした誰にも頼れないさまざまなシーンを通してコミュニケーション力が高まりました。

留学しても授業についていけないだろうかと不安に思っている人もいるかもしれませんが、でも、留学したいのなら絶対に行動に移したほうがいいです。そのあとは、本人の努力次第でどうにでもなります。私自身がそうでしたから。



語学留学のクラス



ピクニックの思い出



ロサンゼルス  
のホストファミリー  
とお出かけ

## 【マレーシア】 各国の留学生たちに接し、 異文化を体感

たむら こうた  
**田村 航大**さん

観光まちづくり学部 3年



### 英語の4技能を学ぶ。 ペアワークやプレゼンも

3年生になる直前の2月に、1カ月間の短期留学をしました。國學院大學には世界各国に海外協定校があります。英語や海外について学ぶきっかけにしたかった上で、費用や渡航距離、滞在日数などのハードルを考えて、マレーシアの首都クアラルンプールにある「Asia Pacific University of Technology & Innovation (APU)」を留学先を選びました。

宿泊は、マレーシアのランドマーク的な存在であるペトロナスツインタワーから徒歩数分にあるホテルでした。そこから大学へはシャトルバスで通いました。

登校初日、英語のテストが行われ、レベルに合わせてクラス分けされます。僕のクラスは真ん中のレベルで、学生の約半分が日本人、3割ほどが中東から、残りの2割は中国や欧米からの留学生でした。

授業は午前と午後で、スピーキング、ライティング、リーディング、リスニングの4技能を学びます。授業の内容はそれほど難しくないので、授業はすべて英語で行われるので、先生の言うことをずっと集中して聞かなければなりません。最初の頃は周りの日本人留学生に聞いたり、確かめたりして、どうにかついていく状態でした。

隣の席の人と教科書を音読し合ったり、自分がライティングした文章を読み合ったりするペアワークもありました。また、4人1組のグループになって、「留学することのアドバンテージとディスアドバンテージ」といったテーマで自分たちの意見をPPTにまとめ皆の前で発表する授業もありました。グループのメンバーに中国人やアラブ人もいて、最初はうまくコミュニケーションがとれませんでした。せめてニュアンスだけでも伝えようと、知っている単語を駆使して話しているうちに、だんだん意見を言い合えるようになりました。



クラスメイトとの集合写真

### 自分の目的に合わせて 留学のタイプを選ぶことが大切

学食で昼食をとっていたとき、一人のアラブ人留学生が「日本人ですか」と声を掛けてきました。それがきっかけで仲良くなり、一緒にしゃぶしゃぶを食べに行きました。彼はイスラム教徒で豚肉を食べられないので、ハラール処理された牛肉とラム肉のコースを頼んでいました。

また、留学期間中、断食を行うラマダンと重なりました。僕たちは昼、学食に向かいますが、イスラム教徒の留学生たちはクラスに残ったまま。授業中も「すみません、抜けます」と言って礼拝堂に行き礼拝をしていました。ラマダン明けのパーティが大学主催で行われ、僕も参加しました。そこで彼らに「断食は辛いのか」と聞いてみたところ、「生活の一部なのでなんとも思わない」と皆、言っていました。宗教が生活の中に深く入り込んでいることが僕には驚きでした。

今回の留学では、環境的には日本人と関わる機会も多くあり、この短期間で英語力が劇的にアップしたとは言いきれませんが、英語や海外に興味を持つきっかけとして、とても有意義な時間を過ごすことができたことを確信しています。自分のように導入機会としては短期留学が向いていますが、すでにある程度の英語知識のある人が英語力の活用やさらなる成長を目指す際には、より学習環境の整っているセメスター留学や認定留学が適していると思います。自分の現状と目的に応じて、自分に合った留学を選ぶことをおすすめします。



修了書を受け取った後の  
記念撮影



大学内にあるカフェテリア



## 【ベトナム】 地域に寄り添い、 地域に合った視点と方法で 観光まちづくりを考える

やまだ みこと  
**山田美琴**さん

観光まちづくり学部 2年



### 言葉が通じなくても飛び込む勇気が 自分と相手を繋げる

4泊6日(1泊は機内泊)のベトナムスタディツアーに参加しました。宿泊は、ホイアンの民宿で、ベトナム中部の都市ダナンから車で40分程度のところ。ホイアンの旧市街は、国際交易港の面影が残る歴史ある古い街です。黄色い壁と木造家屋が立ち並ぶ特色ある町並みは、世界遺産にも登録されています。今回利用した旅客機はベトナム航空です。聞き馴染みのない言葉が飛び交う国際色豊かな機内に搭乗した瞬間から異国感が漂いワクワクが止まりませんでした。

スタディツアーは、積極的に外国語に触れること、海外の観光まちづくりを学ぶことを目的としています。私は、翻訳アプリを使わずに現地の方々積極的に交流することを個人的な目標としました。観光地の近くに実際に暮らす方の家に宿泊させていただいたので、現地の方々が活動する時間帯を見計らって地元のスーパーや飲食店を訪れました。住民は主に早朝や夜遅くに活動するのですが、夜は観光客も多いので今回は早朝に散策しました。ベトナムの人々は主にバイクで移動するのですが、昼間は閑散としているのに対し、朝の交通量は多く、こんなに人がいたのかと驚きました。

2日目にはドンア大学で日本語を学ぶ学生さんたちと交流できる機会がありました。お互いに出し物を披露したり、少人数のグループに分かれて日本語を教えたりベトナム語での自己紹介の仕方などを教えて貰ったりと、お互いの国の言語で積極的に交流することができました。この時に知



ドンア大学交流会

り合った学生とは今も連絡を取り合っていて、これからも繋がりを大切にしていきたいと考えています。

### 好奇心の赴くままに行動する

スタディツアーでは自由行動もあります。現地のオブショナルツアーに参加したり、自由に市街地を散策したりすることができます。私は、ミーソン遺跡を巡るオブショナルツアーに参加したほか、別日には五行山という興味深い歴史を持つ場所も巡りました。仲間と共に交通手段を考えて目的地に向かい、好奇心の赴くままに散策することは、海外で初めての経験でした。市バスやタクシーといったローカルな交通手段を利用することで、現地の生活を垣間見ることができて、とても刺激的でした。

最終日には参加者全員で少数民族の1つ、ムオン族の村を訪れました。山の麓でバスを降り、山の中の村までガイドさんと共に自転車で向かいます。広大な大地に広がるサトウキビ畑と後方の山々の景色は圧巻で、風も心地よく、ここに住んでいるムオン族の皆さんを羨ましくも思いました。ムオン族の皆さんはとても優しく、歓迎の儀式や踊りなどを披露してくれ、ご飯もご馳走になりました。少数民族の村を訪れる機会はそうそう得られるものではないので貴重な体験ができたと思います。

私は、観光まちづくりは、新しいものをただ取り入れるだけではなく、地域に寄り添い、地域に合った視点と方法で地域をより良くしていくことだと考えます。敬意と適応、調和と協調性、そして柔軟性と謙虚さをもって向き合うことの大切さを改めて実感させられたスタディツアーでした。



ネップモイの味見

## 奨学金について

國學院大學では、学生の学びをサポートするため、下記のような多様な奨学金を用意しています。申請条件、申請期間等は、変わることがありますので、ホームページで随時確認してください。

國學院大學学内奨学金(給費)ホームページ  
<https://www.kokugakuin.ac.jp/student/scholarship/p2>

### 学業奨励支援制度

- ◆ 國學院大學成績優秀者奨学制度

### 修学経済支援制度

- ◆ 大規模災害学費減免制度 ◆ 特例給費奨学金制度
- ◆ 教育ローン利子補給制度 ◆ 國學院大學留学生奨学金制度

### 海外活動支援制度

- ◆ 國學院大學短期留学グローバル・チャレンジ奨学金制度
- ◆ 國學院大學セメスター留学助成金制度 ◆ 國學院大學セメスター留学学習奨励金制度
- ◆ 國學院大學認定留学奨学金制度 ◆ 國學院大學認定留学天翔奨学金制度
- ◆ 國學院大學協定留学奨学金制度 ◆ 國學院大學協定留学「標」奨学金制度

### 進路支援制度

- ◆ 国家公務員採用総合職試験支援奨学金制度 ◆ 公認会計士試験支援奨学金制度

### 特定寄付による支援制度

- ◆ カピー奨学金 ◆ ふるさと奨学金

※学外奨学金 このほか、地方公共団体や民間団体の奨学金もあります。

## インターンシップ

國學院大學では、学生のうちに実際に企業や団体などで働いてみる就労体験、いわゆるインターンシップへの参加を推奨しています。

インターンシップの分野は、一般企業から行政機関、民間団体、さらには特定職種別にいたるまで多岐に渡ります。

例えば、主として以下のような形態のインターンシップがあります。

- ・公募型インターンシップ ・学内推薦型インターンシップ
- ・マッチング型インターンシップ ・国際インターンシップ

相談は、たまプラーザ事務課キャリアサポート窓口(1号館1階)へ  
[窓口受付開室時間] 9:00~12:45 13:45~16:40

※インターンシップの詳細は、今後別途案内していく予定です。



## なんでもやってみる 精神が育まれ 人間として成長できた

そめや あやの  
**染谷 彩乃**さん

観光まちづくり学部 2年



### 小型車両系建設機械の操縦資格を 取得するというサプライズも

授業のカリキュラムに観光まちづくりインターンシップ(以下、インターン)があります。2週間見知らぬ土地で過ごすのは面白そうと思い、インターンに応募しました。

私がインターン先に選んだのは、福島県石川町で廃校となった小学校を改装し、「火」と「暮らし」をテーマにさまざまな学習や体験ができる施設として管理・運営している一般社団法人ひとくらすです。

私の主な仕事はひとくらすを利用する人たちの対応です。インターン中、スポーツクラブの子どもたちが代わる代わる3組ほど宿泊で訪れたほか、地元の小学生を対象にした1泊2日のサマーキャンプが行われました。このときはスイカ割りや流しそうめん、花火、バーベキューなどの準備で大忙しでした。活発に動きまわる子どもたちの世話をするのは、さながら保育士になった気分でした。ひとくらすでは「木育」を大事にしています。その一環として、サマーキャンプに参加した子どもたちと一緒に日本最古のおもちゃといわれる木製のバタバタ作りに挑戦したのも忘れられない思い出です。

もう一つ、思いもかけない経験をしました。たまたま予定されていた「林業担い手育成プロジェクト」に急きょ参加できたのです。このプロジェクトにはいろいろなプログラムがあるのですが、このとき行われたのは小型車両系建設機械(ユンボ)の講習会でした。2日間で知識と技能の講習を受けたところ、修了時になんとユンボ操縦資格証書をもたらえたのです! あとでそのことを先生方に報告すると、「え、取ったの!」とビックリされました。



林業担い手育成プロジェクト



サマーキャンプ、椅子づくりの様子



山橋自治センターでのワークショップ

### 意見をどんどん出すにつれて 人々との親密度もアップ

ひとくらすでの仕事がないときは地域の民俗資料館や廃校を利用した他の交流施設を訪れたり、移住者の方に話を聞いたりしました。自治センターでは、その地域の魅力をもっと生かすにはどうしたらよいかを住民の方と考えるワークショップにも参加させていただきました。また、「石川町を元気にしよう」という思いから現地でも活動している他大学のゼミ生とも知り合うことができました。

わずか2週間でしたが、人間としてすごく成長できたと思います。ひとくらすの代表理事を務めている三森孝浩さんご夫婦がとても熱い方で、「やりたいことを口に出したほうがいいよ。そうすればやりたいことが叶うから」とよくおっしゃいました。それで思っていることをどんどん言うようにしたら、インターン先の方々との親密度もどんどん上がっていきました。

私は、高校生のとき、地域の畑を利用してひまわりを育て、オイルを採取してリップバームを作り商品化する「ひまわりプロジェクト」という活動を行っていました。大学生になってからは学生団体を立ち上げ、地域活性化を目指した遊休農地活用を行っています。三森さんにこの活動を今後どう展開したらよいか相談したところ、「できることはなんでもやったほうがいい」とのアドバイスをいただきました。また、石川町でも遊休農地が問題になっているので、私たちの活動がその遊休農地の活用法を考えるヒントにもなると三森さんはおっしゃってくださいました。

今回のインターンで築いた人間関係をこれからも大切にしていきたいと思っています。

## インターンが 挑戦への意欲をもたらし、 将来の夢も明確に

こばやし  
**小林 あみ**さん

観光まちづくり学部 2年



### 種子島の魅力再発見。 SNSで情報発信

観光まちづくり学部に入學したものの、特に学びたいことがあったわけでも、観光やまちづくりへの興味が明確に見えていたわけでもなく、1年生のときは無気力な1年を過ごしました。2年生になって、さすがにこのままじゃいけないと思いはじめていたとき、基礎ゼミの先生から鹿児島県・種子島の南種子町の「宇宙のまちインターン」に参加してみないかと声をかけていただきました。就活に役立つかもと思い、他の4人の学生と一緒に参加することにしました。インターン期間は8月の約1週間です。

インターン名に「宇宙のまち」と付いているように、南種子町は大型ロケットを打ち上げる発射場、種子島宇宙センターがあります。それ以外にも、美しい海や干潮時にしか行けない千座の岩屋といった見どころがたくさんあります。

今回、私たちに課せられたのは、域外の視点で南種子町の魅力を再発見し、それを写真や動画に撮り、SNSで発信していくことです。町役場の企画課の方のサポートを受けながら、毎日山ほど写真や動画を撮り、気づきや印象をメモしていきました。私はそれまで動画を編集したことはありませんでした。Tik Tokでやり方を調べながら、「切っけはつないで」という作業を繰り返しながら形にしていきました。

地元の高校生にもインタビューしました。私は神奈川



荒波がつくった自然のアーチ・千座の岩屋



南種子の夕暮れに染まる海辺のひととき



地元の人が集まる南種子町の賑わい風景



夏の夜空を彩るロケット祭の花火大会

県出身ですが、「自分のまちの好きなところは?」と聞かれても即答できません。ところが高校生たちはそれぞれに好きなご飯屋さんの名前や気に入った場所をすぐに答えるのです。また、一度は都会に出てみたいのかなと思っていたら、そうしたいと言ったのは一人だけ。他の高校生は特に出たいとは思わないと言うのです。みんなの地元愛の強さがとても印象的でした。

### 花火のライブ中継も経験。 町長や教育長との対談も

インターン中に南種子町の大イベント「ロケット祭」があり、最後に花火が打ち上げられます。そのライブ中継を私がしたのですが、「ステキ」とか「きれい」とか誰もが言えるような言葉しか出てきませんでした。そのとき、企画課の方が「もっと気楽に伝えればいいんだよ。ここは失敗していい場所なんだから」と言ってくださり、気持ちがとても楽になりました。

私は人見知りやシャイな性格で、自分から積極的に動いたり、人とコミュニケーションを取ったりするのがあまり得意ではありません。しかし南種子の方は、まるで昔からの知り合いのように親しくしてくださり、それが私にはとても新鮮でした。唯一の心残りや町長さんや教育長さんとの対談です。私は萎縮してほとんど発言できませんでした。あのときもっと話をしていたら、魅力再発見のヒントをもっと得られたかもしれない。積極性が足りなかったと思います。

インターンを経て、いろいろなことに挑戦したいという気持ちが生まりました。今は博物館で子どもたちに昔遊びを教えるボランティアと、保護犬・保護猫をレスキューするボランティアに参加しています。将来についても、地域密着型のレポーターになりたいと思うようになりました。そこで「ビズキャンパス」という学生参加型のメディアの大学生レポーターに応募し、活動を始めています。

## キャリアサポート



小学校から大学まで約16年間に及ぶ学校教育期間を終え、いよいよ社会へ羽ばたこうとする時、私たちは何を考えるのでしょうか。グローバル化、人工知能AIの発達、地域紛争など混沌とした世界情勢。これから飛び込もうとしている世界は、予測不能かつ日々めまぐるしい変化をみせています。そこにどう向き合っていけるか。すべては本人次第です。

世界に羽ばたこうとしている学生の背中を

そっと押してあげる、そのような支援を行っています。

### カリキュラムとの関わり

國學院大学の授業科目は、共通教育プログラムと専門教育科目に分けられます。共通教育プログラムでは教養を、専門教育科目では専門性を身に付けます。これに実践力を付与するものとしてキャリアサポートがあります。

### 資格と講座

國學院大学では、課程の中で「なりたい自分」を叶えるために、博物館学芸員養成課程、神職課程などを提供して自己実現をサポートしています。また、外部機関と連携した資格講座、検定などの受講相談やサポートも積極的に行っています。

(例えば、日商簿記検定3級対策講座、行政書士対策講座、宅地建物取引士対策講座、ファイナンシャルプランニング検定3級対策講座、税理士対策講座、宗教文化士(認定資格)など)

### 国家公務員採用総合職試験支援奨学金制度

国家公務員を目指す人を対象としたキャリア形成をサポートするための奨学金制度です。

奨学金額：本学指定の外部セミナー等の受講料及びセミナー教材費

対象：学部2年次後期に実施する選考試験を受験し、本学指定の学部セミナー等を指定した期間を通して受講できる者

キャリア形成サポートの詳細は、今後別途案内していく予定です。

相談は、たまプラーザ事務課キャリアサポート窓口(1号館1階)へ  
[窓口受付開室時間] 9:00~12:45 13:45~16:40

## 就職・進路の支援



一口に「就職」といっても、民間企業へ就職、行政機関に公務員として就職、資格を取って就職など、様々な形があります。

いずれにしても学生生活の間にしっかり準備して臨むことが重要です。特に民間企業への就職では、就職活動の早期化が進んでおり、入学後、学びを深める中で常に考え、早めに準備を進めておく必要があります。

國學院大学では、就職率だけではなく、就職後の学生一人一人の満足度を特に重視して支援をしています。学生の皆さんが希望する道に進み、社会で活躍し、より充実した人生を送るために、様々な就職支援を企画しています。

たまプラーザキャンパスの就職支援は、たまプラーザ事務課と渋谷キャンパスのキャリアサポート課とのダブル支援体制で行います。

例えば、就職関連の専門アドバイザーを迎えて、一般企業の就職対策をはじめ、公務員試験対策の個別面談や講座を開講します。また、学生一人一人の状況に適切に対応できるよう、業界分析を踏まえた就職支援の企画を検討・実施します。就職活動に取り組む学生を対象とした大学独自のセミナーや合同説明会を数多く開催していますので、積極的かつ気軽に参加してください。

### 主な就職支援企画

ガイダンス…就職ガイダンス 就活スタートアップガイダンス など

各種講座…自己分析&書類対策講座 たまプラー就職ゼミ など

模擬試験…SPI対策模擬試験 模擬面接指導会 など

個別指導…進路調査面談 就職アドバイザー など



### 公務員試験に向けたサポート

就職・進路先として公務員は根強い人気があります。ただ、公務員といっても総合職・一般職から専門職まで様々な職種があり、それぞれ異なる内容の採用試験が行われます。自分の希望をしっかりと考えたうえで、筆記試験、人物評価試験(面接、集団討論、小論文等)などの試験対策を早めに始めておく必要があります。そのため、國學院大学では、1・2年次から様々な支援プログラムを用意しています。例えば、以下のようなプログラムがあります。

- ・PCAP(実践的キャリア開発プログラム)
- ・K-PLAS国家公務員総合職コース など

就職・進路支援の詳細は、今後別途案内していく予定です。

相談は、たまプラーザ事務課キャリアサポート窓口(1号館1階)へ  
[窓口受付開室時間] 9:00~12:45 13:45~16:40

本学部での学びを通して身に付く、地域の課題解決に向けた分析力や提案力、そして未来に向けた構想力は、いわゆるまちづくりや観光業の分野だけでなく、さまざまな領域で活かせる能力です。

■ 就職に関連して次のような資格を目指すことができます  
(別途資格試験の受験が必要です)。

- ・総合旅行業務取扱管理者 ・国内旅行業務取扱管理者
- ・全国通訳案内士 ・地域通訳案内士 ・不動産鑑定士
- ・宅地建物取引士 ・技術士 他

- ・出版・放送
- ・広告代理店・PR会社
- ・商社・金融・IT産業
- ・建設業・不動産業
- ・都市開発 他

公共から地域を支える

- ・国家公務員
- ・地方公務員
- ・博物館等の学芸員\*・職員
- ・環境関連組織 他

※単位取得によって資格を得ることが可能



環境調査・  
保全関連組織



博物館  
学芸員・職員



Uターン  
Iターン起業

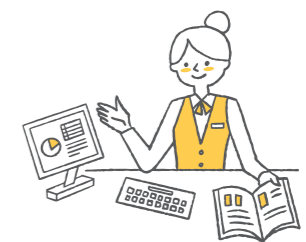


出版  
広告代理店

建設業  
不動産業  
都市開発



観光協会  
/DMO



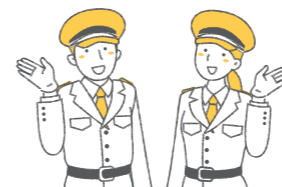
地域に根ざした事業を行う

- ・観光協会/観光地域づくり法人(DMO\*)
- ・NPO
- ・まちづくり組織
- ・Uターン・Iターン起業
- ・地域プランナー 他

\* Destination Management/Marketing Organization



航空・鉄道等  
交通事業者



- ・コンサルタント
- ・宿泊業・旅行業
- ・観光施設運営者
- ・航空・鉄道等交通事業者 他

経済活動で地域と世界をつなぐ

観光の専門を活かす



### 多様な学びから社会に貢献へ

2026年春、観光まちづくり学部は発足以来、初めての卒業生を送り出しました。進路先は、民間企業、官公庁、学芸員、NPO法人、大学院進学など多種多様で、「地域を見つめ、地域を動かす」をキャッチフレーズとして、観光まちづくりに関わる学問を広く学ぶ学部の特徴を十分に反映した結果となりました。また、地域の発展に貢献することを志望した学生が多かったことも特徴です。民間企業は、運輸・交通、宿泊、旅行などの観光産業はもちろんのこと、情報通信・IT業界、製造業、出版・広告業界など多くの業種に選択先が広がりました。昨今観光産業は地域活性化にも力を入れており、関連する企業を希望した学生や、地方公務員、学芸員など地域で働くことを選択した学生も見られました。学部のカリキュラムが学生一人一人の興味関心を育み、その結果が就職先の多様性につながったと考えています。

学部での学びの機会により、自主性や多様な人々と協働して学ぶ態度などが育まれ、就職活動中は面接などを通じて企業へ十分すぎるほどの自己アピールにつながったようです。それは、フィールドワークや少人数による演習におけるグループワーク、そして海外で学ぶ機会も充実していると多くの学生が述べていることから伺えます。たとえば1年次の後期にはさっそく少人数でのゼミ形式の授業が始まり(「基礎ゼミナールA」)、2年次以降には、夏休みに一人で約2週間を地域で過ごしインターンシップを行う科目もあります(「観光まちづくりインターンシップ」)。また正課だけにとどまらず、教員とつながりのある地域を中心に全国各地からインターンシップの機会が紹介され(「情報提供型インターンシップ」)、学生は希望に応じて参加が可能です。さらに海外スタディツアーへの参加機会(過去開催の行き先はベトナム、タイ)や、海外をフィールドとした専門ゼミ活動など、グローバルな視野を育む機会にも恵まれています。

4年間、観光まちづくりを体系的に学んだ学生は、それぞれの興味関心にあったキャリアを見つけて、たまブラザーから巣立っていきました。先輩たちが新しく作った道を、今後は後輩たちがしっかり歩み、また新しい道を切り拓いていくことでしょう。

### 入学時から出版、メディア、PR業界を希望。この3つに絞って就活

とみなが そら  
**富永 空** さん



株式会社JTBパブリッシング(総合職)

観光まちづくり学部 4年

中学のころから江國香織さんや原田マハさんなどの旅エッセイを愛読していました。この学部に入ったのも本や物語を通して、地域の文化や歴史などを学べると思ったからです。また、入学したときからずっと出版やメディア、PR業界で仕事をすることを希望していたので、河兎珍先生のゼミに所属しながら就職先もこの3つに絞りました。

JTBパブリッシングは旅関係の本を多く出している出版社で、第一志望でした。情報を集める中でこの会社は熱意をととても大切にしていることがわかりました。面接では、私がこれまでやってきた好きなことや興味をもったことを、熱意をもってお話ししました。

私は小学校のとき給食に出たことがきっかけで牛乳が好きになり、それからは行く先々で牛乳を飲むのが楽しみになりました。牛乳の味をノートにメモしたり、友人に話したりして、何かしらのかたちでアウトプットしてきました。また母が、調味料が大好きで、その影響から私も全国各地の出汁や塩、ソースなどを買集めるようになりました。

実際に料理に使って味を試して、この料理にはどこそこの出汁が合うなどと自分なりに考えるのも調味料集めの面白さです。大学に入って目指したのが47都道府県に行って宿泊すること。あと5県クリアすれば、目標達成です。

これらは就活で役に立ってほしいと思ってやったことではありませんが、結果的に有効な就活対策になりました。

就職をする上で役立つ授業はたくさんあります。何より、地域と向き合う姿勢や、いろんな視点から地域を見ることで魅力を全体に浮かび上がらせる手法は大きな学びになりました。民俗学の石垣 悟先生の紹介で、地域の博物館に行かせていただいたことがあります。博物館の学芸員の方は地域の文化や魅力をわかりやすいかたちに編集し、展示して紹介しています。それって編集者の仕事とそっくり。面接時にそのことをお話しして、「博物館をコンテンツにした情報誌を作ったら面白いと思います」と加えたら、面接官の方が「それはいいですね」と返されました。大学での学びがこんなところでも活かされたと思いました。

### 京都市にこだわって就活。大学での学びを活かせる市役所を選ぶ

みむら きよ  
**三村 紗唯** さん



京都市役所(地方上級)

観光まちづくり学部 4年

地元長野から大学進学で東京方面に出てきたのですが、都会すぎて居心地の悪さを感じていました。卒業後は地元に戻ろうかといろいろ調べたのですが、やってみたい仕事がありませんでした。東京でも長野でもない場所はどこだろうと思ったとき、真っ先に頭に浮かんだのが京都です。

京都はもともと好きでこれまで何度も訪れています。それに、すごく仲のいい友人が京都に住んでいることもあって、京都で働きたいという気持ちが強くなりました。職種にはこだわらずとにかく京都で働けるところに絞って就職先を探しました。最終的に美容系や商品販売など3、4社と京都市役所から内定をもらいました。この中から京都市役所を選んだのは、大学での観光やまちづくりの学びを活かせるかもしれないと思ったからです。

私が面接でアピールしたのは、インターンとゼミ、部活動です。インターンは2年生の夏休みに2週間、島根県大田市温泉津町に行きました。まちおこしをしている地元の女性たちや移住者の方に話を聞いたり、まちおこし活動を

手伝ったりしました。皆さんとてもいい方ばかりで、その後も毎年通うようになり、卒論のテーマも温泉津町のまちづくり、まちおこしを取り上げました。井門隆夫先生のゼミは一つのことを追究するというより、視野を広げることに力を入れています。夏と冬のプロジェクトがあり、例えば冬には、新潟県の松之山温泉で飲み・食べ歩きを企画し、学生だけで居酒屋を経営しました。学生主体でいろんなことができ、自分が成長できる良い機会になったと思います。

また、野球が大好きだったので全學應援団チアリーダー部に入り、野球部の神宮での試合や箱根駅伝のときなどには日ごろの練習の成果を披露しました。

この学部はフィールドワークが多いのが特徴です。座学と違いフィールドワークは自分で考えて行動しなくてはなりません。それをしっかり行っていれば、就活の面接時に自分は大学でこういうことをしましたと自信をもって言えます。フィールドワークに真面目に取り組むことが就活対策に直結するといえるでしょう。

### 航空運航は多職種協働。演習やゼミでのグループワークの学びが活かされる

のなか はるき  
**野中 遥生** さん



観光まちづくり学部 4年

株式会社AIRDO(総合職)

生まれて初めて海外に行ったのが大学2年生のときのスタディツアーでのタイ。それがとにかく楽しくて、以来、スリランカやタイなど何度も海外に行くようになりました。

飛行機に乗る機会が増えるにつれ、航空業界が身近になり、就職先の選択肢の一つになりました。航空業界でも携わってみたいのは国内の人の移動です。日本で最も旅客数が多いのが羽田―新千歳で、その路線を中心に運航しているのがAIRDOです。ここを第一志望にしました。

3年次の秋、大学主催の就職ゼミに参加し、初めて自己PR文を書いたり、模擬面接を受けたりしました。そのときは全くうまくできなくてかなり焦りました。その後、5回ほど就職ゼミに出ていろいろご指導いただきました。

AIRDOの面接では、演習やゼミでのグループワークでの経験をお話ししました。飛行機は一人では飛ばせません。たくさんの職種の人たちの協力が必要です。僕の場合、小林裕和ゼミでオランダに行き、なぜ水上住宅が発達しているかをグループで調べ、レポートにまとめました。行く前は、

雨で川の水位が上昇しても、水上住宅ならそれに合わせて上がることができるから水上住宅が多いのだろうと思っていたのですが、現地に行ってみると、単なる住宅不足が理由だったことがわかりました。自分の目で確かめることの大切さを学んだのもこのゼミを通してでした。

航空業界を調べるうちに、ディスパッチャー(運航管理者)という専門職があることを知りました。着陸地点や途中の気象状態などから一番安全で効率の良い飛行コースなどを決める仕事です。この資格は2年以上の実務経験を経て検定試験を受けられるのですが、その試験をパスするには気象学や航空工学などの知識が必要です。そのため理系で、かつ大学院を出た人がディスパッチャーになるケースが多いのですが、「ディスパッチャーになるのが一番の夢です」と面接でお話ししたとき、AIRDOの方が「当社には文系の大学の出身者のディスパッチャーもいるので頑張ってください」と言ってくださいました。夢の実現に向かって頑張ります！

## ボランティア活動やコンテスト応募など さまざまな活動が就活の種に

あんどう なほ  
安藤 那穂 さん



栃木銀行(総合職)

観光まちづくり学部 4年

就活を始めたころは人気のIT系や人材系の会社を探していました。進めていくうちに、自分には合わないなと感じるようになりました。思い起こせばこの学部を選んだのは、私の出身県にある鬼怒川温泉が廃れていく様子が寂しく、地方創生に興味をもったから。大学では地方創生を含め、外からの視点で地域を俯瞰したり、新たな資源の魅力を引き出したりと、一つのことに囚われない地域の見方を学びました。せっかくならそれを活かせるところに就職したいとの思いが強くなり、商工会議所や信用金庫、銀行など金融系に切り替えて就活を再スタートさせました。

それらの中から栃木銀行に決めたのは、自分が18年間住み思い入れのある栃木県の地銀であること。金融業務だけでなく、観光や産業の支援、事業承継など非金融部門にも力を入れているところもとてもいいなと思いました。

私は1年次から大学生のボランティア団体に入り、三重県熊野市の花火大会の手伝いをするなど活動してきました。演習IIでは鎌倉の課題を見つけ、演習IIIでは神田川付近の水辺空間の活用を提案しました。インターンでは他の

大学生と一緒に青森県弘前市の街の遊歩道の活用を考えました。卒論は梅川智也先生のゼミで、草津温泉の宿の女将さん5~6人にヒアリングを行い、温泉地における女将の役割についてまとめました。また、「JAPAN MICE Challenge」コンテストに応募して優秀賞を受賞しました。吹奏楽部に入り、定期演奏会やパレードのコンテストなど部活動にも積極的に参加しました。

いろいろな活動をしていたため、大学4年間とても忙しかったけれど、エントリーシートに書くことがなくて困るということは全くありませんでした。やっているときには気づかなかったのですが、それら一つひとつが就活の種になっていました。

この学部の特徴は地域に行く機会が多いこと。しかも訪れた先で、地域のために活躍している人や自治体の首長さんなど普段なかなか会えない人に会って話を聞けます。そのような貴重な体験ができるのは、この学部ならではの良さではないでしょうか。

## まだ知られていない地域の文化や 歴史を発掘するのが学芸員の面白さ

こむら こはる  
小村 恋晴 さん



南種子町役場(学芸員)

観光まちづくり学部 4年

子どものころから親に博物館へよく連れて行ってもらい、イベントやワークショップに参加していました。この学部に入った大きな理由は、観光が学べ、しかも学芸員課程があることでした。石垣 悟先生の紹介で地方の民俗資料館や博物館に収蔵されている資料整理のお手伝いをしました。そこで、手つかずの資料がたくさんあることにビックリ。ますます、地域の学芸員になろうと気持ちが高まりました。

学芸員の募集はもともと少なく、公的な資料館や博物館などの募集が始まるのが4年生の6月ぐらい。友だちはほとんど一般企業の内定が決まっていくので少し不安になることもありましたが、募集の情報が解禁になってからは1日に2~3回ほどチェック。募集が出た瞬間に応募していました。複数応募しましたが、最初に受けて最初に結果が出た鹿児島県の南種子町に決め、他もいくつか面接まで進みましたが辞退しました。

南種子町について調べた中で一番興味を覚えたのが西之本国寺盆踊りです。男性が仮面をつけ祖先の霊に扮して踊るもので、国の無形の民俗文化財に選択されています。全

国的にはあまり知られていないので、もっと調査して展示して知名度を上げたいと思いました。

大学時代、自分にとってとてもいい経験になったのは、2年生のとき、「大学生観光まちづくりコンテスト2023」でJTB賞を受賞したことです。私と友人が提案したのが福島県川内村の特産品を染色して新たな特産品をつくり出し、関係人口を増やして地域の課題である二次交通の充実を図るという内容です。地域内を歩きまわり、人々の話をたくさん聞き、資源を掘り起こし、提案にまとめるという大変な作業でした。でも、あの経験があったからこそ、演習やゼミでのフィールドワークがより質の高いものになったと思います。もちろん、このことは面接での大きなアピールにもなりました。

種子島には、今もさまざまな文化が残っています。それらを調べていったらひょっとすると新しい発見ができるかもしれません。誰よりも先に、知らなかったことに触られる、そしてそれを発信できる、それが学芸員という仕事の面白さだと思います。今からワクワクしています。

## 就活最後に見つけた、興味のある都市計画と 環境に関わるコンサルタント会社に応募

まえだ たかや  
前田 貴哉 さん



観光まちづくり学部 4年

株式会社エックス都市研究所(総合職)

演習の授業ではフィールドワークで訪れたまちの課題を自分たちで見つけ分析し、その解決策を皆の前で発表・提案します。僕の場合、演習IIでは鎌倉の交通、演習IIIでは湯河原の商店街やまちの景観をテーマにしました。演習での課題発見→分析→提案という一連の工程に大きなやりがいを感じました。また、演習の中で都市のマスタープランを見る機会がありました。プランによってまちが良くなったり悪くなったりする。言い換えれば、プランがしっかりしていれば、そのまちはより良い方向に向かうことができます。こうした演習の授業を通して、まちの将来像を描く都市計画にも興味を覚えるようになりました。

3年次の下村彰男先生のゼミで、コンサルタント会社に勤めている先生の教え子が来られ、今携わっている仕事の話がされました。そのとき初めてまちづくりにもコンサルタント会社があることを知り、「自分がやりたいのはこれだ!」と思いました。就活はコンサルタント系に絞り、7社にエントリーシートを出し、うち4社で面接までいき内

定をもらいました。

都市計画のほかに、もう一つ興味があったのが環境です。最近、持続可能なまちづくりが重要視されていますが、それには都市環境やエネルギーでアプローチするのが直接的ではないかと感じていました。内定をもらった会社はどれも都市計画は行っているものの、環境にはあまり関わっていません。環境への興味を捨てきれなかったのも、もう一度会社を探しはじめました。そして見つけたのが環境やエネルギー、地域社会などを領域にしているエックス都市研究所です。やるだけやってみようと思っただけで、意外にもポンポンと進み、受かることができました。

「いけたかも」と手応えを感じたときがあります。面接の際、演習の授業でまとめたパワーポイントを見せながらこういうことをしましたと説明しました。それを面接官の方たちがとても熱心に聞いてくださったのです。

コンサルタントやシンクタンクのほうに進みたい人は、演習をきちんとやったほうがいい。心からそう思います。

## 内定をもらっていたが、 学びを継続したくて大学院進学を決意

よこやま しほん  
横山 駿 さん



観光まちづくり学部 4年

千葉大学大学院園芸学研究科(進学)

歴史的な建造物やまち並みが好きでこの学部に入りました。授業で建造物を守ったり、景観を保全したりする制度があることを知り、興味がますます深まりました。

3年生の秋に石山千代先生のゼミで福島県にある旧宿場町・大内宿を訪れました。そのとき、石山先生の知り合いで千葉大学の齋藤雪彦先生も来られていました。

大内宿は旧街道を挟んで両側に茅葺の屋根の建物が並び、周辺の農地とともに美しい景観をつくっています。しかし最近では休耕地が増え、茅葺屋根の材料である茅も入手しづらくなっていて景観が損なわれつつあることから、齋藤先生は休耕地を利用して茅を育てるプロジェクトを立ち上げられました。石山ゼミで学びながら齋藤先生とも話をさせていただくうちに、もっと歴史的まち並みや景観について学びたいと大学院への進学を考えはじめました。

そのときには、すでにまちづくりに多少関係する不動産や交通系の企業から内定をもらっていました。今から大学院を目指して間に合うのだろうか、やっぱり会社員になっ

たほうがいいのではないかと随分悩んだのですが、大学院進学をどうしても諦めきれません。意を決してまず両親に自分が大学でやってきたことをもっと突き詰めて学びたいことを説明し、大学院進学を認めてもらいました。次に始めたのが受験勉強です。過去問を解いたり、石山先生から本を借りて読んだり、TOEICのスコアをとるために英語もかなり勉強しました。

試験はペーパーなどのほかに、15分ほどの口頭試験があります。そこで質問されたのは、卒論と大学院で学びたいことでした。卒論は僕の出身県・新潟県の上越市にある雁木通りと100年以上続く市場の関係性などをテーマにしたこととお話ししました。雁木通りは家屋の一部やひさしを道路側に張り出し、冬でも通行できるようになった通りです。大学院では大内宿のプロジェクトや歴史的まち並みなどを継続して研究していきたいと伝えました。

この学部ではいろいろな地域の現場を経験できます。その中から自分がやりたいことが見つけれられると思います。

## 地域マネジメント研究センター(CMI)

「地域マネジメント研究センター(Community Management Institute)」は、「観光まちづくり学部と地域・社会を結び、両者の発展に寄与し、観光を軸とした持続可能な魅力ある地域づくりに貢献する」ことを目的とした観光まちづくり学部の附属組織です。CMIを略称として使用しますので、ぜひ覚えておいてください。

CMIは、①研究推進・支援機能、②地域連携機能、③企画・運営機能の3つの機能を有しており、学部と地域・社会をつなぐ実践的組織として様々な事業・活動を行っています。

地域との連携では宮城県大崎市、千葉県香取市佐原地区、神奈川県湯河原町、岐阜県高山市、三重県鳥羽市、愛媛県内子町、大分県由布市の7地域と包括連携協定を結び(2026年1月現在)、活発な交流を行っています。また各地でインターンシップの学生の派遣や、学生・教員が参加する産学官連携事業にも取り組んでいます。今後も魅力ある観光まちづくりを実践している地域や団体などとの連携を進め、学生・教員との交流を図っていきます。



横浜市すすき野・川崎市虹ヶ丘でのイベントに出店した内子町マルシェ(米田ゼミ)



### CMI 3つの機能

#### ① 研究推進・支援機能

- ・ 地方自治体や公的団体などとの共同研究の推進
- ・ 国内外の観光まちづくりに関する情報拠点としての情報の収集・発信
- ・ 「観光まちづくりライブラリー」の運営

#### ② 地域連携機能

本学と包括連携協定を締結する地域をはじめ、魅力ある観光まちづくりを実践している地域や団体などとの学生・教員の交流

### CMI

#### ③ 企画・運営機能

- ・ 学部広報
- ・ イベントの企画・運営
  - \* 観光まちづくりフォーラム(年1回)
  - \* 観光まちづくりカフェ(年4回程度)
- ・ CMIの地域貢献・社会貢献活動の情報発信
  - \* 学部機関紙『観光まちづくり』の発行

## 観光まちづくりライブラリー

～観光まちづくりに関わる教育・研究を支援し、学部と地域・社会をつなぐ情報拠点～

たまブラザーキャンパス若木21 1階・地域マネジメント研究センター(CMI)内にある「観光まちづくりライブラリー」(以下、ライブラリー)は、観光まちづくりに関する専門図書・資料や情報を収集・保存し提供する専門ライブラリーです。一般の図書館のように自由に図書や雑誌を閲覧したり、借りたりすることができます。

ライブラリーから観光まちづくりへの興味を広げてください。



#### 【ライブラリーの特徴】

##### ●学部の学びに必要な図書・資料の収集と独自分類

図書は、学部教育に関わる基本書、レファレンス資料(辞典・事典等)など約3000冊、雑誌は専門雑誌・学術誌など約120誌があります。

図書は学部カリキュラムの体系を踏まえた観光まちづくり分類(KM分類)という独自分類によって、わかりやすく排架されています。

KM分類(大分類)	
KM0	国学院関係・教員図書
KM1	I類: 社会
KM2	II類: 資源
KM3	III類: 政策・計画
KM4	IV類: 交流・産業
KM5	メソッド
KM6	ガイドブック・地図
KM7	統計・調査計画資料

##### ●特徴的なコレクション

国内外のガイドブックや地域情報誌、包括連携協定締結地域資料など、様々な地域を学びのフィールドにする本学部ならではの図書・資料が揃っています。

##### ●木の温もりの感じられる館内

館内にある大きなテーブルや椅子、一部の書棚は、岐阜県高山市の地場産業である飛騨家具メーカーの製品です。無垢の木の温もりを感じながら、ゆったりご利用ください。

#### 【利用ルール】

- \* 食べ物の持ち込み、ライブラリー内および資料の撮影はできません
- \* 個人PC、フタ付きの飲み物は持ち込み可

#### 【利用案内】

##### ◆利用対象

国学院大学の学生・教職員

##### ◆開館時間

平日10:00～17:00 通年開館(土日祝日は休館)

\* 大学の夏休み、年末年始の休み、春休み期間等は休館する場合あり

##### ◆資料の閲覧・貸出

○ライブラリー内での閲覧は自由

○貸出は原則、本学教職員およびたまブラザーキャンパスの2学部(観光まちづくり学部・人間開発学部)の学生が対象(渋谷キャンパスの学生は図書館から取り寄せ可)

\* 貸出冊数: 同時5冊まで/人

貸出期間: 1週間(4年生は2週間)

(貸出できない資料(館内閲覧のみ))

禁帯出図書(辞典・事典、統計・白書等)、一部の雑誌および地域情報誌等

○その他

\* ライブラリー内で資料のコピーはできません。一時貸出の手続きをし、多目的ホール等でコピーをしてください

\* 資料に関する相談は、開館時間内に限り、受付で対応します



観光まちづくりライブラリー

<https://www.kokugakuin.ac.jp/education/fd/tourism/about/library>

### 企画展示&イベント

ライブラリーでは、「鉄道」や「路上観察」など様々なテーマによる展示・イベントを企画実施してきました。今後も観光まちづくりへの興味を深めるべく、本学部ならではのテーマによる展示やイベントに取り組んでいく予定です。皆さん、ぜひご参加ください。

路上観察イベント「まち歩きの人で賞!!  
フォトコンテスト」(2024年10月)



## 「観光まちづくりフォーラム」と「観光まちづくりカフェ」

CMIでは、地域の実践例や他の学術分野とのシナジーにより、「観光まちづくり」に結びつく幅広い学びを生み出すためのイベントとして、「観光まちづくりフォーラム」や「観光まちづくりカフェ」を開催しています。



「観光まちづくりフォーラム」は、本学部の考える観光まちづくりを外部に発信することを目的としたイベントで、年1回開催しています。地域の観光まちづくりの実践者にお越しいただき、具体的な取り組み事例に関する講演や実践者同士のパネルディスカッションなど、観光まちづくりについての幅広い議論が展開される場となっています。オンライン視聴の参加申し込みも受け付けており、観光まちづくりに興味をお持ちの方なら誰でもリアルタイムでご参加いただけます。開催が近づきましたら、大学のホームページにてご案内いたします。学生のみならずのご参加もお待ちしております。

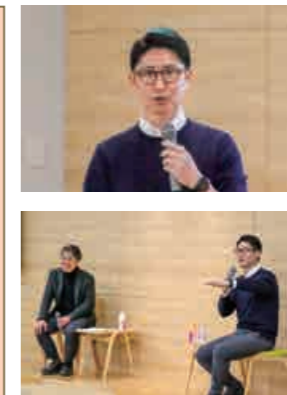


第6回 観光まちづくりフォーラムの様子

2020(令和2)年度～2025(令和7)年度に、以下の「観光まちづくりフォーラム」が開催されました。

- ◆ 第1回 2020(令和2)年11月26日(木)  
「地域を見つめ、地域を動かす」
- ◆ 第2回 2021(令和3)年11月8日(月)  
「私たちの考える観光まちづくり」
- ◆ 第3回 2022(令和4)年11月15日(火)  
「観光まちづくりのリアル、そして未来」
- ◆ 第4回 2023(令和5)年11月8日(水)  
「地域の暮らしと観光まちづくり」
- ◆ 第5回 2024(令和6)年11月6日(水)  
「多様なセッションが響き合う、観光まちづくり」
- ◆ 第6回 2025(令和7)年11月5日(水)  
パネルディスカッション・テーマ：  
「次世代につなぐ観光まちづくり」

- ◆ 第12回 2025(令和7)年3月3日(月)  
テーマ：「その土地と生きていく。  
～山村熊川宿での地域づくり～」  
ゲスト：株式会社デキタ 代表取締役 時岡 壮太 氏



- ◆ 第13回 2025(令和7)年5月28日(水)  
テーマ：「突端から風をおこすーまちおこしゲリラの挑戦」  
ゲスト：Yプロジェクト株式会社 島 康子 氏



- ◆ 第14回 2025(令和7)年10月8日(水)  
テーマ：「観光立国への道」  
ゲスト：星野リゾート代表 星野 佳路 氏



## 観光まちづくりCafé

「観光まちづくりカフェ」は、年間3～4回程度、ざつぱらんな形で行われる、学部内での勉強会・交流会です。地域で活躍されているまちづくりの第一人者をお招きし地域の実践例について講演していただいた後、ゲストと教員をパネリストとしたパネルディスカッションや意見交換会を通して理解を深めていく形となっています。

学生の参加も歓迎しており、学生が地域づくりの主役と直接交流できる貴重な機会となっています。是非積極的に参加して学びを深めてください。

2024(令和6)年は、左記の観光まちづくりカフェが実施されました。

※ゲストの所属等は実施当時のものです。

# たまプラーザキャンパス

## 主な施設紹介

東急田園都市線たまプラーザ駅から静かな住宅街を進むとたまプラーザキャンパスが見えてきます。正門を入ると目に飛び込んでくるのは木材の意匠が印象的な1号館です。その先には2号館、さらに歩を進めると広い球技場にたどりつきます。その向こうにある緑色の屋根の建物が観光まちづくり学部の学びのメイン施設、若木21です。

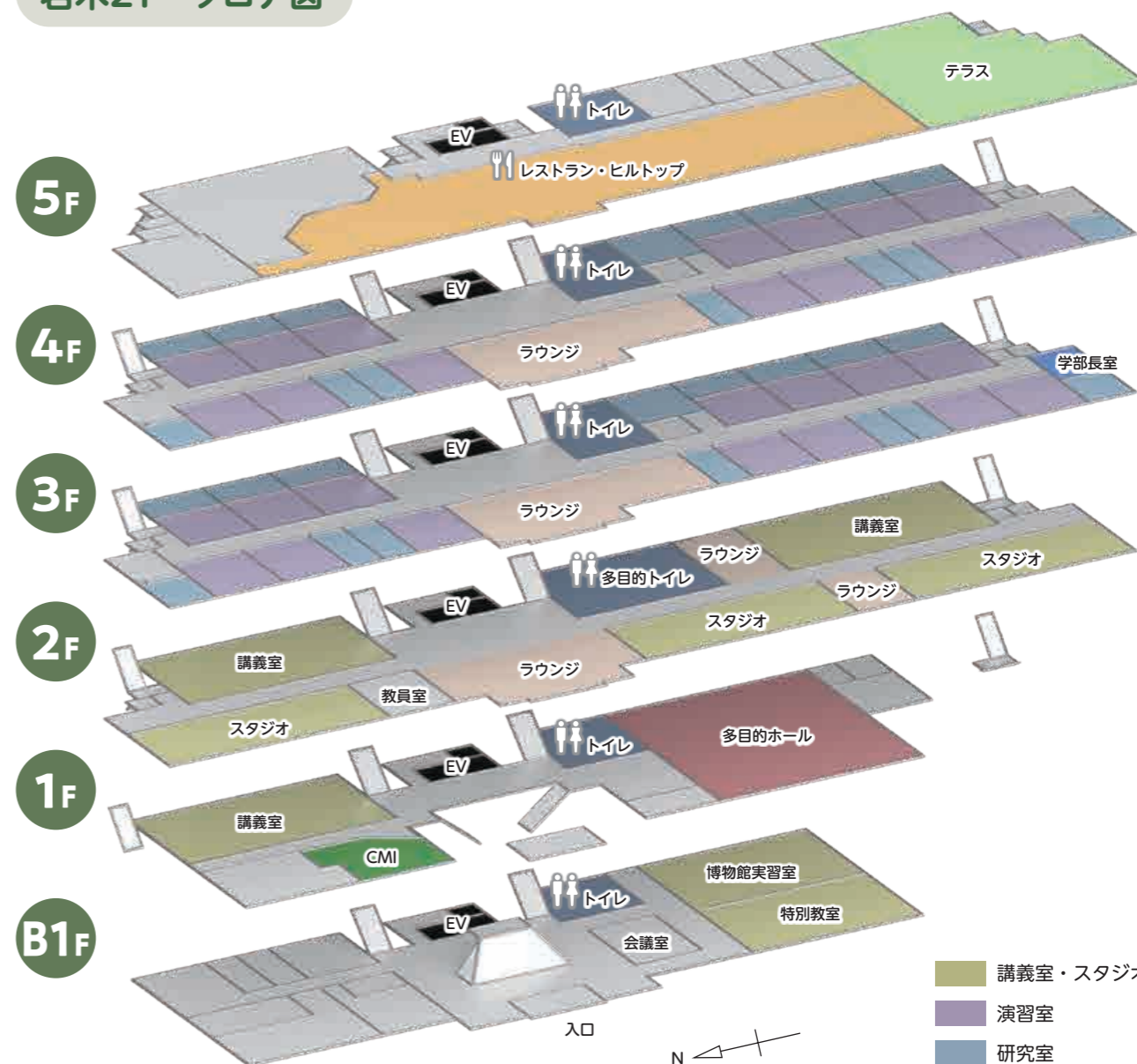


### たまプラーザキャンパス

- ① 1号館  
講堂／教室／理科実験室  
ピアノレッスン室／音楽教室  
調理実習室／図画工作室  
被服実習室／リトミック室  
コンピュータ教室  
たまプラーザ事務課／教員室  
保健室／学生相談室  
教育実践総合センター  
生協売店／多目的室／乳児室  
観覧室／保育室  
実験実習室／ICT教室
- ② 2号館  
人間開発学部研究室・資料室  
図書館・視聴覚ブース  
カフェラウンジ「万葉の小径」
- ③ 3号館  
研究室／資料室／  
地域ヘルスプロモーションセンター
- ④ SPORTS SQUARE 1  
アリーナ／剣道場  
測定室ほか
- ⑤ 5号館  
和室／アトリエ  
体育系クラブ・サークルフロア  
学術・文科系クラブ・サークル  
フロア  
音楽・演劇練習室／収蔵庫
- ⑥ 若木21  
観光まちづくり学部研究室／  
演習室／教室／教員室／  
スタジオ／多目的ホール／CMI  
スカイレストランヒルトップ
- ⑦ SPORTS SQUARE 2
- ⑧ SPORTS SQUARE 3  
柔道場  
トレーニングルーム  
多目的ホール  
ミーティングルーム
- ⑨ 青葉寮(スポーツ学寮)
- ⑩ 野球場
- ⑪ 球技場
- ⑫ テニスコート
- ⑬ 遊歩道(万葉の小径)

## 観光まちづくり学部の学びのメイン施設 [若木21]

### 若木21 フloor図



- 講義室・スタジオ
- 演習室
- 研究室



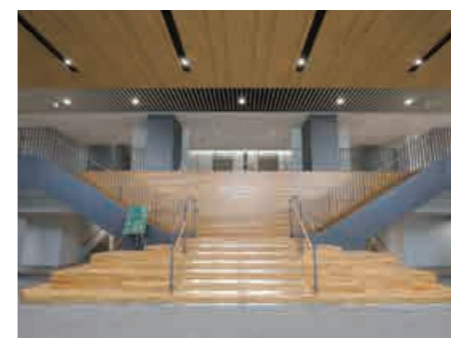
1号館



球技場から見た若木21



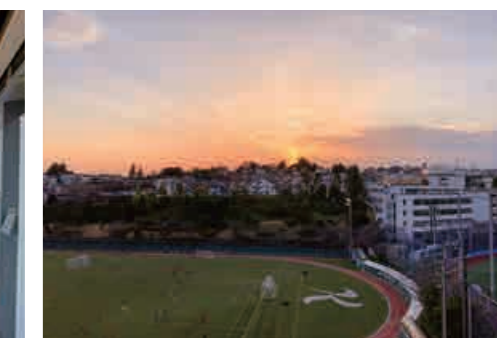
若木21エントランス



エントランスホール



ラウンジ



ラウンジからのぞむ夕日

## 学びのメイン施設 [若木21]

若木21は観光まちづくり学部の新設に合わせて内部をリニューアル。大型モニターなど最新設備を導入し、内装デザインにもこだわり、キャンパスライフの充実が図られました。教員や学生たちが議論し、語り、笑い合う、そんな光景があちらこちらで繰り広げられています。

### 休憩と自習のスペース

1号館や若木21をはじめ、キャンパス内の建物には、ところどころに休憩スペースが設けられています。また、授業以外の時間を有効活用できる自習スペースもあり、快適な学びをサポートします。



多目的ホール(若木21)

若木21の1階には全国の銘木を使った家具類を備えたホールがあります。ランチを食べたり、会話を楽しんだり、リフレッシュするのに最適な空間です。コピー機も設置されており、適宜利用できます。

### ラウンジと自習スペース

パソコン作業ができる自習コーナーは課題をこなしたり発表準備に使ったりできると学生たちに大好評。



演習室

全面ガラスのドアとスケルトン天井というスタイリッシュな環境の中で学ぶことができます。教員の研究室が隣接しているので質問や疑問などがあれば気軽に行けるのも特長です。



5階には眺めがバツグンの  
**スカイレストラン**があります！



スカイレストラン「ヒルトップ」

素晴らしい景色を眺めながらの食事タイムはなんとも贅沢。眼下には広々とした球技場が、正面には図書館などがある2号館や緑豊かな万葉の小径などが目を楽ませてください。

## 図書館 [2号館] 2～4階 (4階が入口)

國學院大学の建学の精神は告諭に謳われているとおり、「本ヲ立ツル」ことにあります。それは、史資料を有効に利用した学び・探求にほかなりません。國學院大学の図書館には160万冊以上もの本が収蔵されています。



### 自主学習スペース

図書館では、単に本を借りるだけでなく、新聞記事や視聴覚資料などの閲覧、セルフサービスなどのコピーなどもできます。また、静かな環境で自習できるスペースなども用意されています。

### 利用ガイド

**【開館時間】**  
9時～19時30分(月～金曜)  
9時～16時30分(土曜)  
詳細は図書館ホームページ  
<https://www.kokugakuin.ac.jp/student/lifesupport/library>



たまプラーザキャンパスの図書館は、人間開発学部の学びに関連する教育関係や絵本などが多数集められていますが、観光まちづくり学部の開設に合わせて観光やふるさと創生、民俗学などの資料の充実も図られています。蔵書検索システム(OPAC)で検索できるほか、貴重な資料やコレクションは「図書館デジタルライブラリー」で閲覧できます。探している本がない場合は、渋谷キャンパスやレファレンスサービスでほかの図書館などから取り寄せるサービスも提供されています。

### 博物館

渋谷キャンパスには國學院大学博物館があります。日本文化の講究に必要な資料を収集・保存し、学術的な研究成果を一般に公開するとともに、広く学内外の研究教育活動に資することを目的として設置されました。常設展、企画展ともに無料で観覧できます。

また國學院大学の学生は、東京国立博物館をはじめ、国立美術館(6館)について、学生証を提示するだけで、無料(所蔵作品展)ないし割引(企画展)で観覧できます。

## 快適なキャンパスライフのためのサポート [1号館]

### 授業・生活・就職支援 (1号館)

教職員が一体となり、さまざまな学生支援体制を整え、大学生活を楽しく過ごせるための環境づくりを行っています。



たまプラーザ事務課



キャリアサポートスペース

教務や学生生活、キャリアサポートなどの窓口があり、大学生活や単位履修などを総合的に対応しています。困ったこと、わからないことなどがあつた時は、気軽に相談・質問できます。

自分の適性や価値観などに応じた進路選択ができるよう、高い専門性をもった職員が個別相談を行っています。

### 國學院大學生協 (1号館地下1階)



軽食や飲み物のほか、文房具や参考書などが販売されています。授業で使用する教科書も購入できます。運転免許取得や各種資格講座の申し込み、卒業式の着物・袴のレンタルなどのサービスも行っています。

### 体と心の相談 (1号館)



保健室

常に2人以上の保健師が常駐し、学内で生じた外傷などに対して応急処置を行っています。また、必要に応じてたまプラーザ周辺の医療機関を紹介したり、健康に関する相談に応じたりもしています。



学生相談室

学生一人ひとりが身体ともに健やかに大学生活を送れるよう専門スタッフがサポートしています。

「大学でやりたいことが見つからない」「満足感や充実感がない」「夜眠れない」など自分一人では解決しにくい問題や悩みに、専門の訓練と経験を積んだスタッフ(臨床心理士・公認心理師・精神科医)が対応します。

## 憩い・交流 [2号館]



おいしい食事や飲み物を楽しめる  
**「カフェラウンジ万葉の小径」**

さまざまなメニューを楽しめます。どれも美味しくボリューム満点。しかも栄養バランスも考えられています。万葉の小径に面したオープンテラス席では、心地よい風に包まれながらお茶や食事を楽しめます。



たまプラーザキャンパス周辺の魅力

たまプラーザ駅周辺  
BY観まち生

**① PEOPLEWISE CAFE**  
BBQや貸切も可能なカフェ。フードメニューもデザートメニューも豊富で、ゆったりとした時間が過ごせます。



**100段階段 美しが丘のランドマーク**  
小学生も塗り替えのお手伝い♪




マヨルカベーカリー  
ラムギ屋  
山内公園  
ResonEssance  
Osteria RIMA  
山内小学校  
美しが丘第8公園  
URBAN TADKA  
天ぶら 佐藤  
Les Sens  
老語屋  
スバニッシュ&イタリアンDai

- 掲載スポット
  - 飲食店
  - その他スポット
- 0 200m

**⑦ Trattoria La Borraccia**  
ビブグルマンにも選ばれた北イタリアの郷土料理が楽しめます。こだわりの生パスタがおすすめです!



**② Càvollo Café**  
新鮮な野菜を使い、薪窯で焼き上げたピッツァは絶品!ゼミの打ち上げでもよく利用されるお店です



**③ Merengue**  
ふわふわのパンケーキと、本格的なハワイフードが楽しめます。学生はモーニングで利用することが多いです。



**④ 沖縄居酒屋 遊び庭**  
本場の沖縄料理や70種類以上の泡盛を楽しめるお店。ソーキそばやソーミンチャンプルーがおすすめです。



**⑤ 子ぐま**  
創業1996年の好み焼き屋さん。山芋で作られた生地はいくらでも食べられるほど軽い食感です。ぜひ一度訪れてみてください。




**⑥ 溶岩焼きダイニング Campus**  
大学近くのレストラン。アンガス牛のハンバーグやステーキが人気です。テイクアウトもできます!






1 2 3 4 5 6 7 8

美しが丘公園  
Bio Complet  
BlueDOOR Coffee  
焼肉ホルモン スモーキー  
EiCalvo  
バーガーバル ダンディ  
東急百貨店  
イトーヨーカドー  
北口  
東急たまプラーザ駅  
たまプラーザテラス  
南口  
肉汁餃子のダンダダン  
手打そば風来齋  
くら寿司  
居酒屋弥太郎  
トルバドール  
新石川小学校  
申田公園  
万葉の小径  
国学院大学  
たまプラーザキャンパス  
若木 21

**⑧ LATTE GRAPHIC**  
開放的な店内では様々なアートが楽しめます。電源(一部のみ)やWi-Fiも利用できるため、作業や勉強時にもおすすめのスポット。



**たまプラーの桜名所**  
少し足を延ばすだけで、お花見ができちゃうスポットがたくさん!  
特に万葉の小径通りから、さらに南側の新石川桜並木通りへの散歩がおすすめ。

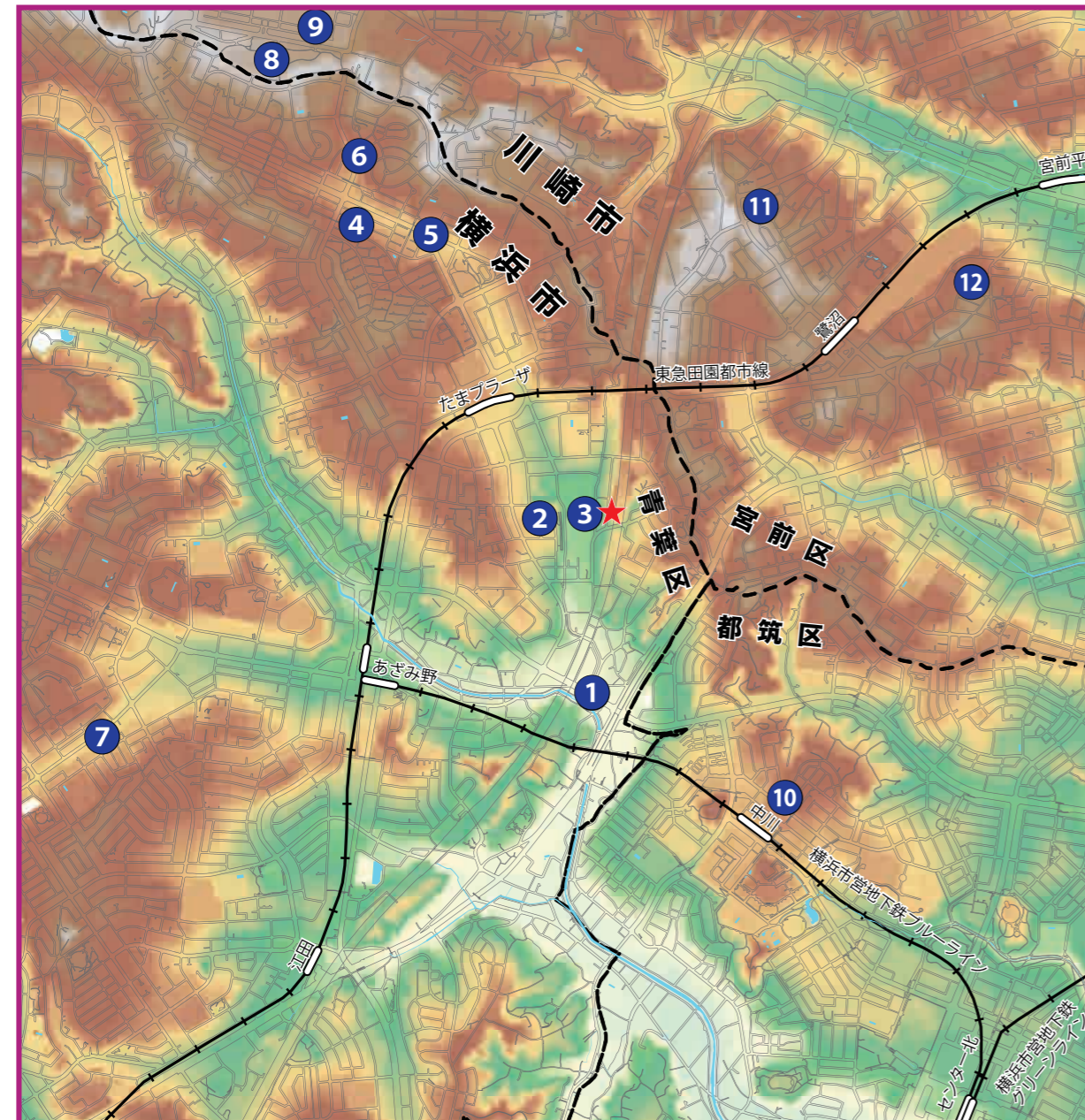
# 地形図で見るたまプラーザキャンパス

たまプラーザキャンパスのある横浜市青葉区は、東を都筑区、西を町田市、南を緑区、北を川崎市に接しています。その面積は35.06km<sup>2</sup>。横浜市内では戸塚区に次ぐ広さです。

横浜といえば、「港」や「海」をイメージするかもしれませんが、「丘」や「坂」をイメージできるのも特長です。青葉区は、多摩丘陵の東端に位置し、海拔高度が高く、起伏に富んだ地形となっています。区の中央部を流れる鶴見川をはじめ、早瀬川や恩田川などのいくつもの河川が丘陵を分断・削剝して谷底低地を樹枝状に形成しており、かつては台地と低地の織りなす緑豊かな里山景観が広がっていました。

造成・宅地化が進んだ現在でも、まちを歩いたり、公園や緑地を散策したりすると、その地形や景観を感じ取ることができます。たまプラーザキャンパスも、野球場や競技場のある低地、1号館や若木21などのある台地からなります。1号館と2号館の階数のズレも、横浜の「丘」「坂」を象徴しています。

- ①早瀬川 ②國學院大學たまプラーザキャンパス・万葉の小径 ③桜並木 ④美しが丘 ⑤100段階階段
- ⑥クルドサク ⑦桜通り ⑧菅生緑地 ⑨川崎市中央卸売市場北部市場 ⑩中川 花と緑の散歩道
- ⑪鷺沼北公園(梵天山) ⑫東京メトロ鷺沼車両基地



★若木21  
 15 90 0 0.5 1 km

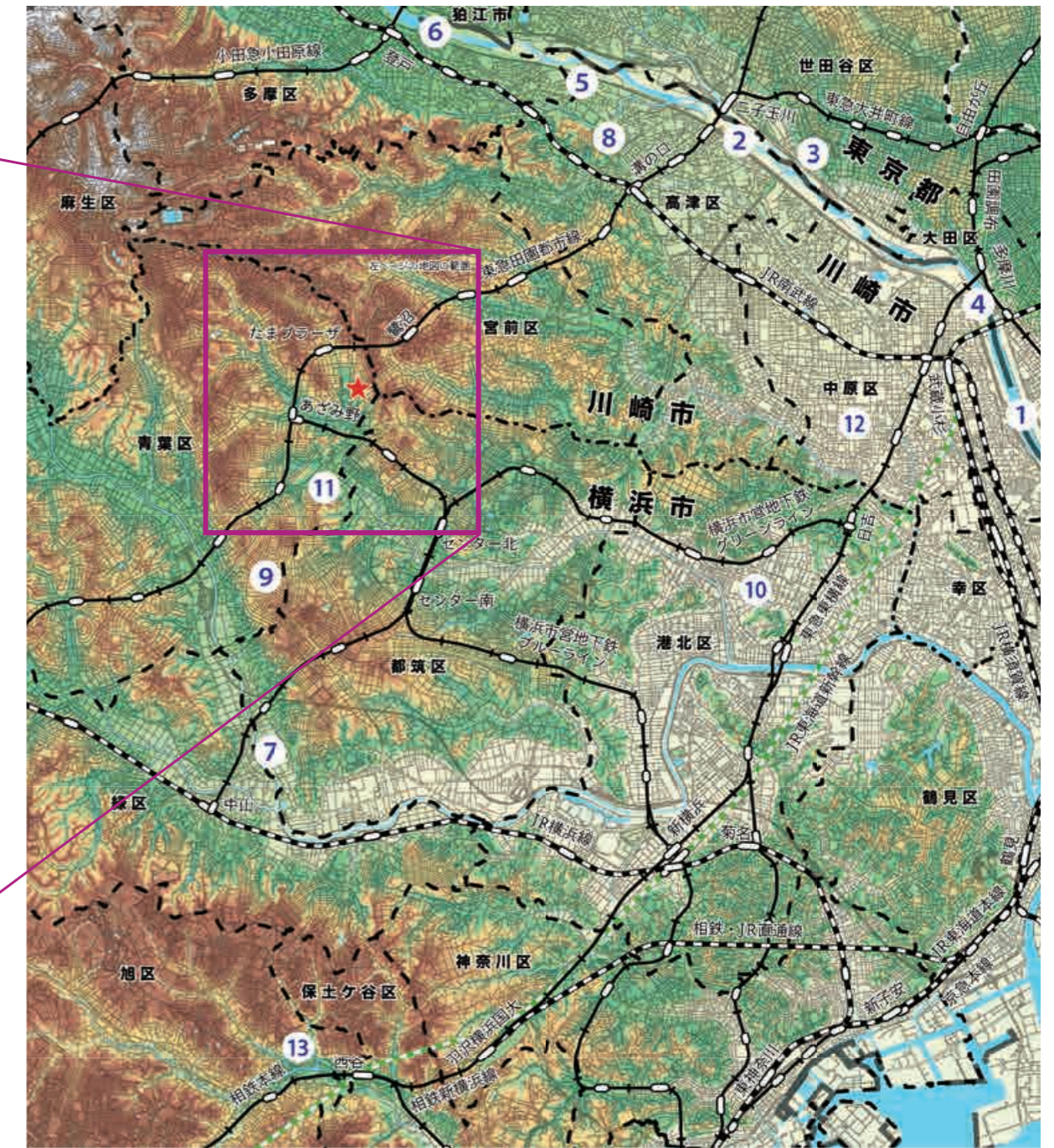


この地形図は、地理情報システム(GIS)を利用して本学教員が作成したものです。

地形図をじっくり見たら、次は現地を歩いてみるのが、「観光まちづくり」への一歩です。自分で情報を調べつつ、キャンパス周辺を散歩・散策してみましょう。また、GISを使って色々な地図を作ってみるのも良いでしょう。QGISという、無料のGISもあります。

いろいろなことが発見できるかもしれません。

- ①多摩川 ②二子橋 ③等々力渓谷 ④多摩川浅間神社・丸子の渡し ⑤宇奈根の渡し ⑥登戸の渡し
- ⑦鶴見川 ⑧津田山 ⑨鎌倉街道・中道 ⑩鎌倉街道・下道
- ⑪矢倉沢往還(大山街道・厚木街道・国道246号) ⑫多摩川低地 ⑬帷子川



★若木21  
 0 120 0 1 2 4 km

## 入学者受け入れ方針 ～アドミッション・ポリシー～

観光まちづくり学部では、以下のような学生を受け入れます。

- ・観光・交流を通じた持続可能な地域の形成や振興に関する学問的な基礎を学びたいという意欲がある者。
- ・上記の学問的な基礎をもとに、地域社会の再生、活性化及びまちづくりに貢献したいという意欲がある者。
- ・既存分野の壁を越えて能動的に学ぶ向上心を保持し、積極的に地域に働きかけようという意欲がある者。

上記の方針に基づき、以下の観点で入学希望者を審査します。

- 【AP1】本学部で学ぶ分野に関する教科・科目について、高等学校卒業程度の基礎学力を備えているか。
- 【AP2】地域社会やその持続可能性に対して問題意識を持ち、論理的に考え、自分の考えを表現するための基礎的な力を持っているか。
- 【AP3】自身の興味・関心にしたがい、主体的に活動に取り組み、またはその成果について第三者からの評価を得ているか。(主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度)

### 入学までに身につけるべき教科・科目

「国語」「数学」「外国語(「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」)、「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を中心とした基礎学力を前提に、「地理歴史」「公民」「理科」「情報」の中から幅広く学習していること。

### 一般選抜入学試験制度について

	V方式(大学入学共通テスト利用入試)		A日程			B日程
	3教科型	5教科型	3教科型	最高得点科目重視型	学部学科特色型 英語外部試験利用型	
試験日	1/16(土)・1/17(日)		2/2(火)	2/3(水)	2/4(木)	3/2(火)
概要	大学入学共通テストの成績のみで判定		本学独自の個別入学試験のみで判定(オールマークセンス方式) 日程により判定方法の異なる4タイプの入試			<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学独自の個別入学試験のみで判定</li> <li>・数学は記述式、その他はオールマークセンス方式</li> <li>・英語検定試験スコア利用可能</li> </ul>
教科・科目	必須：「外国語」から1科目 選択：「国語」「地理歴史」「公民」「数学」「理科」「情報」の6教科から2科目	必須：「外国語」から1科目 選択：「国語」「地理歴史」「公民」「数学」「理科」「情報」の6教科から4科目	以下3科目による受験。(いずれも必須) ・「外国語」*英語外部試験利用型は外国語以外の2科目による受験 ・「選択科目(歴史総合・日本史探究・歴史総合・世界史探究、公共・政治・経済、数学Ⅰ、数学A(図形の性質・場所の数と確率)、数学Ⅱ、数学B(数列・統計的な推測)、数学C(ベクトル))」 ・「国語」または「理科(物理基礎+物理、化学基礎+化学、生物基礎+生物から試験当日に択一)」			以下2科目による受験。 必須：「外国語」 選択：「国語(近代以降の文章)」または「数学(数学ⅠA)」から1科目

\*日程・科目などの詳細は、大学ホームページの入試情報を必ずご確認ください。

### 総合型・学校推薦型選抜入学試験 「選考のポイント」

#### 志望理由書

何のために本学に入学し、どのように学ぼうと思っているのか、また、社会に出てどのように活躍したいと思っているのか、さらに、自分をしっかりと分析し、優れているところをアピールしてください。あなたが住んでいる地域やゆかりのある地域に対して、どのような興味・関心を抱いているか、また、もしあればそうした地域とどのように関わってきたかを記してください。

#### 活動レポート

自分自身の学びの経験について、主体的に学び、経験してきたことを中心に、設定したタイトルに沿って記してください。なお、こうした活動を証明できる書類等を添付してのアピールも可能です。

#### 面接試験

面接官に論理的かつ独創的にアピールできる表現力を評価の主な対象とします。その上で、提出した書類を基に質疑を行い、的確に回答できるかも評価の対象となります。

※入学試験制度により、この他にも提出書類を求める場合があります。また、面接試験での質疑内容は入学試験制度により異なります。詳細は入学試験要項をご確認ください。

	入学試験制度	選考方法	AP1	AP2	AP3	本入試制度の狙い
一般選抜	A日程	個別学力試験	◎	○		高等学校で履修する科目について、高等学校卒業相当の学力を持つ学生を受け入れます。
	B日程	個別学力試験	◎	○		
	V方式	大学入学共通テスト	◎	◎		
総合型選抜	公募制自己推薦(AO型)	調査書	◎		○	観光まちづくり学部での学修に必要な能力・資質と意欲を持つ受験生を、第1次選考(調査書、志望理由書、活動レポート、観光まちづくり学部独自課題に基づく書類選考)、第2次選考(観光まちづくり学部独自課題の説明及び第1次選考提出書類に基づく質疑)の2段階で総合的に選考します。
		志望理由書		◎	○	
		活動レポート		○	◎	
		地域分析レポート	◎	◎		
		解決策提案シート	○	◎		
	面接試験		◎	○		
	観光まちづくり学部特別選考	調査書	◎		○	観光まちづくり学部での学修に必要な能力・資質と意欲を持つ受験生を総合的に選考します。
		志望理由書		◎	○	
		個別学力試験/大学入学共通テストの成績	◎	○		
		面接試験		◎	○	
外国人留学生入学試験	志望理由書		◎	○	観光まちづくり学部での学修に必要な能力・資質と意欲を持つ受験生で、外国籍であり、日本の高等学校卒業相当の学力を持つ者を、第1次選考(書類選考)、第2次選考(面接試験)の2段階で総合的に選考します。	
	活動レポート		○	◎		
	日本語小論文	○	○			
	面接試験		◎	○		



## 「観光まちづくり」のための 地域の見方・調べ方・考え方

國學院大學地域マネジメント研究センター [編]  
朝倉書店、2023年3月

「観光まちづくり」の入門テキストとして、さまざまな専門分野の本学部教員16名が執筆に携わりました。本書は「地域を見つめる」(調査)と「地域を動かす」(実践)の二部構成となっており、観光まちづくりの実践スキルや提案力を養う内容となっています。また、図表や写真を多用し、各教員が研究している具体的な事例を分かりやすく紹介している点も特徴です。観光まちづくりに興味をお持ちの方、これから観光まちづくりを学びたい方にとって、本書は必ず役立つ一冊です。

例を分かりやすく紹介している点も特徴です。観光まちづくりに興味をお持ちの方、これから観光まちづくりを学びたい方にとって、本書は必ず役立つ一冊です。